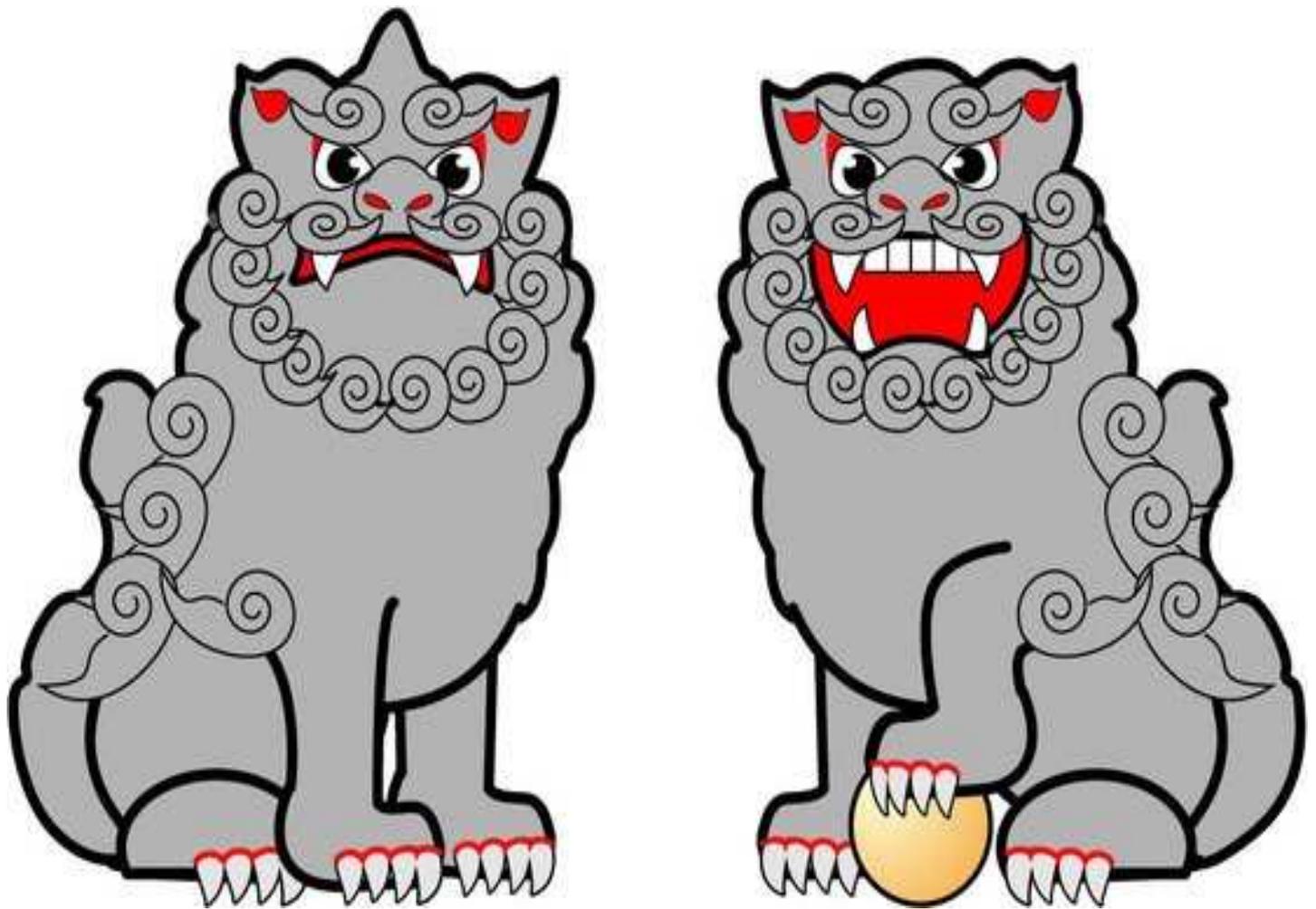


# 日本の狛犬

(市原市内の神社・寺院の狛犬)



狛犬ってなに?面白い狛犬!千支のこま?などの紹介

制作・編集 上総の国いちはらの歴史を知る会

## 目 次

3P—	狛犬とは ・狛犬の起源 ・狛犬の語源 ・狛犬の系譜
4P—	狛犬の分類 ・属性による小分類 ・江戸獅子の特徴
7P—15P	十二支の狛犬について
15P—	高瀧神社の狛犬
16P—20P	市原・八幡地区の狛犬紹介
21P—32P	五井地区の狛犬紹介
33P-37P	市津地区の狛犬紹介
38P-46P	三和地区の狛犬紹介
47P-52P	南総地区の狛犬紹介
52P-55P	加茂地区の狛犬紹介
56P-60P	参考資料



### 飯香岡八幡宮所蔵の市原市内で最古の狛犬と云われます木造狛犬

この『日本の狛犬』（市原市内の神社・寺院の狛犬）を制作・編集にあたり、次の資料を参照及び引用致しました。

- ・ 『市原の狛犬』（市原市教育委員会編集発行）・インターネットより『全国の狛犬図鑑』・『千葉県⑥—1』・
- ・ 『神社の門番は狛犬とは限らない？ユニームな狛犬特集』・『狛犬の分類学』・『狛犬の精神史』・『狛犬の分類研究（1）』・『江戸獅子と浪花狛犬』・『千葉県市原市の味わい深い狛犬たち』・他

## 狛犬とは

(たくきよしみつ著『新狛犬学』から引用)

神社の境内を構成するもので欠かせないものは、社をはじめ、鳥居や手水舎、狛犬が一般的なものとなっていますが、まれに寺院などにも置かれているものもある。狛犬は邪気を払い、神前守護の役割を持つと言われていす。犬といっても獅子と獅子形の像とされていますが、地域の神社にとっては、他の動物のものもあります。狛犬には石造だけでなく、初期は木造や青銅製、陶器製などがある。狛犬が仏教と共に入ってきたのに神社に多く置かれているのはなぜか？神仏習合のためで、神道では仏像のように形あるものを祀る訳ではなかったため、仏像に代わる神像を置くようになったという。



最も古い獅子・狛犬形式の木造  
(9世紀前半)

## 狛犬の起源について

狛犬の起源はペルシャやインドにおけるライオン(獅子)をかたどった像で、エジプトのスフィンクスと言われています。スフィンクスは国王の墓といわれるピラミッドを守るために築かれたもので、百獣の王ライオンをモチーフとし、その後シルクロードを経て中国を経由して日本にも飛鳥時代に仏教とともに入ってきた。当初は木造や金属製で神社の本殿や仏殿内部に設置されたもので、その後神社では境内の入口に置くようになり石造りとなった。当初は、中国と同様に一對の「唐獅子」でしたが、平安時代ごろから右に口を開けた(阿形)の獅子像で、左側には口を閉じた(吽形)の狛犬像に代わっていった。しかし、時代の経過と共に「阿吽」の基本形式は維持されているものの左右の像の差異を持たせなくなり、「獅子像」になってゆくものや、十二支の干支を使った狛像を置く神社もある。

## 狛犬の語源について

狛犬は朝鮮半島(高麗)から伝わって来たことから「高麗犬」と呼ばれ、それが変化した「狛犬」になったのが定説です。但し「狛」は朝鮮だけでなく中国本土の周囲を広く指すという説と、魔除けに用いたところから「拒魔(こま)犬」と呼ばれるようになった説など諸説あります。

また、なぜ犬なのかというと、九州南部に住む隼人(はやと)という人々が犬の声を真似て天皇を警護したからという説もある。このように得体のしれない霊獣を日本独自の解釈で捉えた結果、狛犬という呼び方が誕生したという説があります。

## 狛犬の系譜を大きく分けると

- 1) 平安時代後期に始まった公家狛犬(木造の獅子や狛犬)
- 2) 神殿狛犬や陣内狛犬などとも呼ばれる。
- 3) 越前で生まれて、のちに北前船で全国に運ばれる商品として成功する越前禿型。
- 4) 「こまいぬ」というものがあるという伝聞から民間で生まれた素朴な民間狛犬(田舎狛犬・村狛犬(通称「はじめ狛犬」)
- 5) 戦国の武将らが領地の神社に奉納した石造狛犬(武家狛犬)や、庄屋や豪農など、地域の有力者が施主となって地元の神社に奉納し始めた旦那狛犬などがある。
- 6) これらが混ざって様々なタイプの狛犬が生まれて、地域ごとに進化をしていった。



建久7年(1196年)建立という記録があり日本最古の石造り狛犬です。宋の石工が中国から輸入した石で掘った中国獅子で、正確には狛犬とは言えないかも。

## 狛犬の分類について

狛犬の分類で悩むのは、何を基準にして分類するのかわかりにくい状態です。形、発祥地、分布地、年代、材料などによりごちゃごちゃになってしまい、非常にわかりにくい状態です。それらを考慮した上で分類の基盤、項目、研究者への言葉の定着率を留意しながら分類をしてみました。

### ● 全体の形と出自による分類

地域による形状類似 —越前禿・畿内(浪花)・江戸・出雲(丹後)・尾張玉乗り・佐渡兜・・・など

由来やコピー元の共通による形状類似 —渡来中国獅子・護国・神殿狛犬型・籠神社型・靖国神社型・東大寺型・・・など

年代、材料と制作手法による定型化 —はじめ・越前禿(材料が笏谷石)・岡崎現代型・岡崎古代型・輸入物・・・など

狛犬由来ではないもの —狼・狐・和犬、十二支によるもの(犬は除く)

### ● 属性による小分類

材料による分類—石(火山岩系か深城岩系か砂岩系か)。

詳細分類としては、採石地名による固有名。小松石、来待石、大谷石・御影石・大谷石・笏谷石・・・などの特定。

木・ブロンズ・焼き物(備前焼、美濃焼・・・。セメント・コンクリート・鑄鉄・・・など)。

構図的 분류 —両正面・両ひねり・対面・混合型・獅子山 など

付属物による分類 —玉乗り・玉抑え・玉くわえ・子持ち(組み伏せ、遊ばせ、授乳など)

尾の形 —扇尾・炎尾・筒尾・獅子尾・滝(流水)尾など。また、尾が立っているか寝ているかという大分類。

目の形 —釣り目空豆型・釣り目半月型・丸目型・垂れ目型・小判目型・光彩のある・なし

耳の形 —垂れ耳・立ち耳・横耳・耳なし

頭の形・髪型 —角あり・なし・宝珠(擬宝珠)・兜型・前分け・尊結び・たてがみ(ライオン型)・・・など

### ● 江戸獅子と浪花狛犬での分類

江戸獅子



浪花狛犬



江戸獅子の特徴 前髪や眉がカールしてほぼ中央分けのヘヤースタイル。

目はやや小さめで、楕円形。目玉の瞳は描かない場合が多い。

耳は伏せ耳が基本。

鼻はそれほど大きさを強調しない。

鬚は顎鬚があり、前髪に合わせてカールしている。

唇は極端な二重にはならない。

歯はあまり彫り込まないが、ある場合は犬型(犬歯状が多い。左右二本の犬歯のも彫り込むこと)

もある。

全体の形—やや平べったいが彫りが浅くない、犬などの獣の頭部に近い印象。吽型にも角のあるものはそれほど多くない。

### 浪花狛犬の特徴

前髪はほとんどなく、代わりに太い眉がある。

目は大きなぎょろ目。ほぼ正円形。目玉の瞳を描く場合が多い。

耳は折れ耳、または横耳が基本。

鼻は大きく胡座をかいた獅子鼻や団子鼻。

鬃は真下にはなく、顎の両脇にこぶ状に描かれる。

唇は二重に縁取りする。

歯は特に阿型は多くが歯をむき出しにしており、形状は人間型（入れ歯型・獅子頭型）が多い。

全体の形は縦長でほりが浅い。人面、鬼面に近い印象。また、本来の「獅子・狛犬」の形式を踏襲しているため、吽型の狛犬の頭部に角がある場合が多い。

### 身体全体の特徴



### 江戸獅子の特徴

たてがみ：体毛は長毛で流麗に流れてる。

尾は江戸後期からは下がって身体に巻くように密着。初期のものは尾が立っている。

背中猫背で、丸みのラインが美しさを強調。

子獅子は阿吽合わせて、大抵1～3頭付属している。

姿勢は前脚を上げていたり、立ち上がったりのものもある。構図的に自由度が大きい。

### 浪花狛犬の特徴

たてがみ・体毛は螺髪のようにこぶ状に短く巻いているものが多い。

尾は団扇型が基本で直立、背中側に密着している。

背中ほぼまっ直背筋を伸ばしている。

子獅子は居ても1頭どまりであることが多い。

姿勢はお座りが基本で、あまり自由度はない。

### 歴史的な考察

近畿地方には江戸風的な破天荒な狛犬は少ない。つまり「狛犬とはこう言うものだ」という常識が確立されており、石工たちの「常識」を踏襲されたもので、反対に江戸では、石工の組織はいくつかに分かれており、腕を競い合い石切り場も遠く離れていたため、石問屋と石工の集団も分かれていた。江戸は新しいものや、より流麗で豪華なものが江戸っ子に好まれていたと思われます。



狛犬は、基本的には向かって右側で口を開いているのが「オス」で「阿像」で、右側が口を閉じている「メス」の「吽像」で、運慶・快慶像のように仏教の教えによるものが大きく影響しているものと思われるが、地域によっては左右が逆の物も見られる。

狛犬の多くは、鳥居の内側に置かれていますが、これは元々本殿や拝殿の中に置かれていたものです。江戸時代以降に参道に置かれるようになったようですが明確な意味は解っていない。

「国史大辞典」によると「狛犬」の項には「通常は、神殿の縁側または社寺の前庭に置かれる。昔は宮中で凡帳の裾の鎮子として小型の木造狛犬が用いられたもので、要するに守護神として置られていたと思われる。それがしだいに軒下に移り、形もそれに従い大きくなった。境内に狛犬を置くようになったのは、宮殿や陵墓の参道に石造獅子を置く風習が影響したと思われる。※例外として、鳥居の外側に置かれているものもあります。また、狛犬が参道に置かれるようになった最古のものは、「寛永 13 年（1636年）、日光東照宮の家康の墓前に置かれた一対の狛犬が、関東から以西の太平洋側では最も古い石造狛犬で、日光廟の増築の監督した二人の大名が、その功績等で特に許され、神君の墓を守るため配置したという。このことを知った江戸の人たちが、自分の町の神社にも狛犬を奉納するようになったという。

橋本万平氏説の「日光東照宮説」の紹介より。

「市原の狛犬」（市原市教育委員会）では、鎌倉時代後期に和風の狛犬が造立されるようになり、その後社殿建築が盛んになると共に神社の内陣、外陣、門前、鳥居付近に備えられたが、社殿の外ではなく内部の左右に配された比較的小型のものが古式あるという考え方もある。それぞれの神社の狛犬設置位置があり、「拝殿前」「神殿前」が多いが、「稻荷神社」「鶴舞神社」「熊野神社」は鳥居前、「畑木神社」は「石階段下」「鳥居の外側で、神社入口正面に置かれている」また「玉前神社」は「鳥居の前の石段下の鳥居の外側」にあり、神社の一番外側で護っているが、それぞれその意味についての記述ない。



畑木神社の鳥居前狛犬  
鶴舞神社の鳥居前狛犬



## 狛犬には十二支の狛動物のものがあるのを知っていますか？

神社の守り神として狛犬が置かれていますが、獅子や犬だけでなく神社によっては十二支が守り神とされ置かれている所もあります。いわば狛動物です。その動物は、神社にとって特別重要な意味を持つ動物や土地にゆかりのある動物などと思われる。十二支すべての狛動物が揃い祀られている神社が京都にあります。その神社は、京都七條「新日吉（いまひえ）神社」と言い、ネズミからイノシシまでの狛動物が置かれています。その狛動物をよく見ると愛嬌のある顔つきで、個性的でかわいいものです。



狛鼠を置く神社は、「京都の大豊神社と横浜の戸部杉山神社」にあります。ここでは「大豊神社」の紹介。

大豊神社は平安時代初期（887年）に宇多天皇の病氣平癒を願って藤原淑子が創建したと伝えられる神社で、創建時は椿ヶ峰の山中にあって椿峰山天神と呼ばれたが、寛仁年間（1017年～1021年）に現在の地に移されたという。大豊神社の狛ねずみは境内末社の「大国社」の前に祀られている。伝承によると、「大国主命が火攻めに遭遇した際にねずみが現れて洞窟に大国主命をかくまって助けたことが古事記に書かれており、その伝承に元づき狛鼠として祀られている。



狛牛を置く神社は「天神社・天満宮」に置かれているが、これは「菅原道真公」によるものです。

菅原道真公は、生まれたのが丑年で、亡くなったのも丑の月の丑の日と云われる。丑像の型が「臥せ」で共通するのは、大宰府で亡くなった道真公の遺骸を運んでいる途中で、車を牽く牛が伏して動かなくなり「安楽寺」（後の太宰府天満宮）に埋葬されたことによるものと云われる。このことから道真公を御祭神としている天満宮や天神社などに狛牛が置かれています。市原市内では「古市場の天神社」に置かれています。



### 狛虎を祀る神社（大江神社）と寺院（鞍馬寺）の紹介

大江神社の境内奥に鎮座する狛虎は江戸時代に置かれていた毘沙門天の守護で、明治の神仏分離で「吽形」が滋賀に移され、残った「阿形」も大阪大空襲で焼夷弾を受け、耳がとれ歯も欠けてしまいました。そこで平成15年8月地元有志が「狛虎を一對にしたら優勝するのでは」と「吽形」の狛虎をつくり奉納した。その年に阪神タイガースは18年ぶりに優勝した。マスコミも大きく取り上げられ、今ではタイガースの守り神として多くのファンがお参りされている。

「阿形」においても江戸時代の終わりに作られ台座の風化も進んだので、平成23年10月に総代をはじめ崇敬者の寄進により奉納され、そろってのお披露目となった。江戸時代の阿・吽形の狛虎は蔵に保管されている。



大江神社の狛虎阿吽石像

鞍馬寺の狛虎阿吽石像



鞍馬寺は、源義経が牛若丸と呼ばれた幼少期に過ごした寺院として有名です。奈良時代末期の宝亀元年8770年の頃、鑑真和上の高弟・鑑禎上人（かんちょうしょうにん）が毘沙門天を祀ったことが起源とされています。毘沙門天の使いが虎ということで、山内に2組4頭の虎が置かれています。1組は仁王門前に新座する阿吽虎で、大正2年（1913年に置かれたという。もう1組が本殿金堂前に置かれています。こちらの阿吽狛虎像は、青銅製で昭和26年（1951年9月に鎮座したもので、どんなものでも噛み千切りそうな鋭い牙や渦を巻いて盛り上がった背中が、虎の強さを見事に表現している。その他の寺院で狛虎を置く神社として、京都の建仁寺の塔頭寺院である両足院や法輪寺などが有名です。両足院の鎮守社である毘沙門天堂にも、一對の狛虎が睨みをきかせています。また、法輪寺は「嵯峨の虚空蔵さん」としてその名を親しまれる寺院で、嵐山を一望できる山の中腹に建つ古刹です。山門を抜け、長い階段を上った先に鎮座する狛虎の石像です。筋骨隆々でしなやかな動きを感じられる身体。そして大きな口を開けて天に向かって叫ぶ姿は勇壮です。

## 狛兔を祀る神社で埼玉県に建つ「調(つぎ)神社」の紹介

「調神社」は地元では「つきのみや」という愛称で呼ばれています。鳥居のない神社としても有名で、狛犬ではなく狛兔が置かれているのも全国的に珍しい神社です。神社の由緒ですが、今から2000年前の第10代崇神天皇の勅命により創建された。伊勢神宮に納める貢物の初穂を納めた倉庫群の中に造営された為、貢物搬出入の妨げになる鳥居がないと伝えられています。確かな文献では、平安時代中期の延喜5年(905年)に醍醐天皇が編纂を命じた法典である「延喜式神名帳」に、武蔵国四十四座の一社と記載されています。南北朝時代の延元2年(1337年)に、足利尊氏が一色範行に命じて荒廃した社殿を復興したと伝えられる。その後戦国時代末期の天正18年(1590年)の小田原兵乱で再び焼失したが、徳川家康の関東入府後から江戸時代初期に再建された。現在の社殿は安政6年(1859年)竣工で、総檜(ケヤキ)の権現造りです。一代前の本殿も、境内末社の稲荷社本殿として現存しています。

狛兔の由来は、「調」が「つき」と読み、「月」と同じ読みであるところから「月」の度物と云われた「兔」が神の使いとされ、中世の月待振興の広がり結びつき、江戸時代には「月読社」とも呼ばれていました。



全国には「調神社」のほかに狛兔を置く神社は湯倉神社(北海道)・熊野大社(山形県)・戸越八幡神社(東京都)・三輪神社(愛知県)・住吉大社(大阪)・宇治神社(京都府)・東天王岡神社(京都府)・白兔神社(鳥取県)・鶺鴒神社(宮崎県)などが有名です。

## 狛牛・狛兔・狛蛇が祀られる寺院「三室戸寺」

三室戸寺本堂前には、狛牛と対面して狛兔が安置されています。三室戸寺のある地域は、古来より「菟道(うじ)」と称され、宇治の中心地でもありました。仁徳天皇の弟の「菟道稚郎子」は「宇治天皇」とも称され、一時皇位に就いたと言われる。この「菟道稚郎子」は応神天皇と宇治の豪族、和選邇氏の娘との間に生まれた皇子で、宇治の本拠としていたので、こう呼称されていた。菟道稚郎子が宇治に来た際、兔が道案内したとの伝承であり、兔と縁があります。

三室戸寺には、狛牛・狛兔に続く「狛蛇」といえる「宇賀神」の像が祀られています。この寺にはカニを助けた娘が蛇に嫁入りを迫られ、カニ蛇を退治した伝承があり、娘が蛇の供養のために奉納したと伝わる宇賀神の木造がある。



## 狛龍を祀る神社「伏見神宝神社」の紹介

稲荷神社の総本宮の伏見稲荷大社の摂社として「伏見神宝神社」がある。創建は不詳ですが、平安時代に端を発し、かつては稲荷山上に祀られていたとされている。仁和年間(885年～889年)に宇多天皇からも大神使が贈られ、皇室の信仰を集めたが、中世以降は廃れ、昭和32年(1957年)に再建された。境内には龍頭社、八大龍王大神、白龍大神が祀られている。



日本国内に狛辰を置く神社は多くありますが有名10社を調べますと、秩父今宮神社(埼玉県)・田無神社(東京都)・江島神社・龍口明神社・箱根神社・九頭龍神社(神奈川県)・伊豆山神社(静岡県)・貴船神社(京都府)・龍田大社・丹生川上神社三社(奈良県)が置かれている。



田無神社の狛龍石像



龍口明神社の狛龍石像



貴船神社の狛龍石像⇒

## 狛蛇を祀る神社

へビは治病、健康長寿や若返り、金運のご利益をもたらす神と云われ、仏教では弁財天のお遣いであるへビが願いを聞き、弁財天に伝えるという。日本全国には狛巳(蛇)を置く神社・寺院が多くありますが、有名10社・寺を紹介します。

大谷寺・磯山弁財天・久下田白蛇弁財天(栃木県)・光福院(埼玉県)・蛇窪神社(東京都)・三室戸寺・大豊神社(京都府)・岩国白蛇神社(山口県)・阿蘇白蛇神社(熊本県)などがある。

### 磯山弁財天の紹介

磯山弁財天は、天曆2年(948年)に藤原秀郷公が創建したと伝えられる神社です。山腹にある眺望豊かな三層楼の舞台づくりです。本殿は鎌倉時代に再建されたもので、釘を使わない「かけつくり」という昔の建築美を今に伝える文化財として大切に継承されている。周辺には水に縁の深い水神として、池や河を祀り、蛇に祀わる神話が多く残されている



## 狛馬を祀る神社

### 相馬中村神社(妙見中村神社)の紹介

相馬中村神社は、相馬中村城跡にある神社で、入口には狛馬の像が置かれています。本殿への参道は、急な石段の男阪と緩い坂道の女坂があり、本殿は大きくありませんがかなり古い造りで立派なものです。この神社の起源は、相馬氏の始祖である平将門が承平年間(931年~937年)に下総国猿島郡に妙見社を建立したことに始まるという。相馬氏の相馬郡下向に伴い建立された。戦国時代の16世紀後半には、中村城が相馬氏の北の居城となり、相馬盛胤や隆胤などが城主となった。1600年の関ヶ原の戦いの結果として相馬氏は改易されたが、1611年に旧領へ復帰を果たして中村藩を立てた。その時初代藩主の相馬利胤が1611年に中村城内に相馬氏の守護社である妙見社を建立し、現在の相馬中村神社起源となった。現在の社殿は国の重要文化財に指定されている。



全国で狛馬を祀る神社は数多く見られるが、その県で有名な神社を紹介します。気比神社(青森県)・駒形神社(岩手県)・駒留神社(東京都)・賀茂神社(滋賀県)・藤森神社(京都府)・多度神社(三重県)・宇佐神社(大分県)など。



変わった狛馬の写真です。

## 狛羊を祀る神社

親子の狛羊を祀る名古屋の羊神社の紹介。千支にまつわる神社・寺院は全国にありますが、羊そのものを祀っているのは全国で群馬県の羊神社と愛知県の羊神社の2社のみです。この二つの神社には切っても切れない縁があり、どちらも可愛い狛羊が置かれています。

名古屋の羊神社は、1838年に再建された神社ですが、平安時代の927年(延長5年)に編纂された全国神社一覧表ともいえる「延喜式神名帳」には「山田郡羊神社」という記載があり、1000年以上の歴史がある由緒正しい神社です。神社の見渡すと至る所に羊を形とった像やレリーフが見つかります。「羊神社」の由来は群馬県多野郡にある特別史跡の「多胡碑」に記載されている羊太夫からきているという。群馬の領主だった羊太夫が奈良の都に参上する際にこの

地に立ち寄った屋敷が現在の辻町にあり、彼が心安らかにと「火之迦具土神」を祀って建立したので、彼の名にちなんで「羊神社」と呼ばれるようになったという。



### 狛猿を祀る神社

古来より日吉といえば猿と云われ、魔除けの象徴として大切に扱われるようになりました。「まさる」は「魔が去る」「勝る」に通じ大変縁起の良い神のお使いです。全国には「日吉神社」「日枝神社」「山王神社」と呼ばれる日吉大社の神様の御霊を分けた「分霊社」が3800社あります。それらは方徐の神様として、武士がお城や屋敷を建立するにあたり分霊された。また「山王」とは日吉の神様の別名で、天台宗・比叡山延暦寺の守護神としての性格を意味する。それを「山王信仰」といい、天台宗のお寺の広がりと共に日吉の神様が祀られています。市原市能満に建つ「府中日吉神社」にも狛猿が置かれています。

### 狛猿の「府中日吉神社」の紹介（市原市能満）

府中日吉神社は、白鳳年間天武元年（673年）に創建された神社です。社史によると本殿は室町時代後期の15世紀末に再建されたと言われ、当時は「山王権現」もしくは「日吉山王権現」と呼ばれていたが、明治政府の廃仏毀釈により明治12年に「日枝神社」として神社庁に登録され、その後明治27年に現在の「府中日吉神社」と名称変更された。社号に「府中」を冠する神社で、中世における国衙機構との関連があると思われる。（幕府の守護所に関係か）



参道に祀られる口を閉じている狛猿



県指定の指定文化財の本殿建物

日吉神社の総社である「日吉大社」にも狛猿が置かれているかと調べたら、狛猿ではなく「狛獅子と狛犬」が魔除けとして祀られていました。しかし、境内や社殿建物などに猿の関係した彫り物や塚などが魔除けとして祀られています。

## 狛犬を祀る神社

狛犬を祀っている神社は国内にいくつかあります。「狛犬」の由来は、「犬が卵を産みその卵が孵化するように、形のないところから物事が成就する修理固成の御神徳がある」とされているのと、ニワトリは「不動明王」の使いであると云われています。「狛犬」がある神社で有名な神社は「鶏石神社」（福岡県）・中野神社（青森県）・白鬚神社（山形県）・下鴨神社・鷲森神社（京都府）などがある。ここでは日本唯一の「ニワトリを祀る神社」で、酉年には多くの参拝客で賑わっています。狛犬も寄付を募って建てられた雄鶏と雌鶏の像は小さくて可愛いものです。また、お守りや絵馬も卵型になっており、大変珍しい神社です。また、「白鬚神社」という名前の神社では「常世の長鳴き鶏」に関係する神を祀っており、神の使いとしての「狛犬」がいるようです。



## 狛犬を祀る神社

神社にお参りしてまず目立つものは鳥居と狛犬ではなかろうか。（神社によってはないところもありますが）狛犬の由来や起源については前の項で説明済ですので省きますが、全国で古い狛犬を祀る神社をいくつか紹介します。

木造で最も古い狛犬を祀られる寺院として「教王護国寺（東寺）の木造狛犬 日本における狛犬文化はここから始まったものかと実感できる大変貴重なもので、国の重要文化財に指定されています。「公家狛犬」として分類から江戸時代からの石像とは別物と思われま



東大寺南大門の石獅子像 建久7年（1196年）建立と云われる「日本最古の石造り狛犬です。宋（中国）の石工4人が中国から輸入した石を彫って建立した「宗風の中国獅子」ですが、狛犬かどうかは？（写真は3ページに掲載）

## 大宝（だいほう）神社の木造狛獅子

大宝神社のものは獅子・狛犬ではなく、獅子・獅子（どちらも角がない）というタイプで、木造狛犬の中では異色の物です。国の指定重要文化財で、制作年代は鎌倉時代とされていますが、台座裏の墨書きには「伊布岐里惣中」と記されている。「伊布岐里」は修験道の聖地でもあり、伊吹山の宿坊集落として発展した村で、室町時代後期あたりから琵琶湖畔の東部一帯には「伊吹修験道」と修験者や修行僧、参拝者などが集まる「伊吹百坊」と呼ばれる惣坊群が出来て賑わっていた。こうした背景から、山岳信仰との関係が深い村にできた村民組織が、自分たちの地位を確認する意図で、このような立派な木造狛犬を奉納したと思われま



たと思われま。獅子・獅子の組み合わせであることや、胸に鈴をつけていることから「獅子・狛犬の形式成立以前の中国獅子に先祖返りした」という説明がされていますが、奉納者が伊吹村の前身である山里の「惣」であったとすれば、宮中文化より前の中国獅子に意識的に戻したとも考えられるが、これを彫った作者の力量は素晴らしいものです。

### 高森神社の石獅子

年代がはっきり刻まれている石の狛犬としては最も古いものと思われています。背中に「文和四年乙未五月七日」と刻まれていて、文和4年(1355年)は南北朝時代の北朝の年号です。大きさは30センチにも満たない小さなもので、木造の公家狛犬を石で掘ったものと思われま。有名な籠神社の狛犬とよく似ており、籠神社の狛犬のモデルになったと思われる石の獅子像が14世紀半ばに存在していたことを示す重要なものです。



### 三珠熊野神社のはじめ狛犬

山梨県の三珠熊野神社にある応永12年(1405年)の日付が腹部に刻まれている「はじめタイプの狛犬」は、狛犬史上最もミステリアスな存在の物と云えます。この狛犬は平安時代に始まる公家狛犬(獅子・狛犬)とも、中国獅子とも、高森神社の石獅子とも違うのです。おそらく畿内の名のある寺社とは関係なく、庶民が「狛犬というものを奉納してみたい」と思い彫ったものではないかと思われる。こうした「民間狛犬」のルーツが江戸時代より200年以上前にあったとすれば、実に興味のあるものです。



### あわら市の春日神社の狛犬

越前(福井県)では笏谷(しゃくだに)石という細工がしやすい意志が産出され、この石を使った比較的小型の神殿狛犬が大量に作られた時期があった。前にカールしたオカツパ頭と紐状の尾が特徴で、「越前禿型(えちぜんかむろがた)」と呼ばれるものです。1500年代に誕生し1600年代以降にかなりの数に作られ、北前船に乗せられ全国に売られて行きました。あわら市春日神社の狛犬には「永正12年(1515年)のもので、年号と共に「伏野菊千代丸」という奉納者名も刻まれている。武士の幼名だとすれば、親が子の健康や開運を願って奉納したものと思われま。



### 籠(この)神社の狛犬

この狛犬は一時期鎌倉時代の作という説があって「国産の石造り狛犬として最古のもの」と云われていましたが、年号が刻まれていなく、多くの研究者が疑問に感じているものです。高森神社の小さな石獅子像、あるいはそれに類似する作品を真似て巨大にして制作し、神社に奉納したと思われま。奉納時期は1500年代半ばから1600年代初めと思われ、安土桃山時代か江戸初期と思われま。しかし、大きさと云い、どっしりとした風格と云い、素晴らしい狛犬です。この狛犬のコピーが数多く存在し、大変影響力が大きかった狛犬です。



### 江戸城二の丸東照社の狛犬

この狛犬は、現在は川越市の仙波東照宮拝殿前におかれていますが、元々は江戸城内にあり、元和4年(1618年)に徳川二代将軍・秀忠公により江戸城内の構内にある紅葉山に家康公を祀る東照社を建て、元和8年(1622年)には天主台の下にも本丸東照社を建てました。そのご、家光公により日光東照宮の大造替えに合わせて寛永12年(1635年)

に本丸東照社は廃されて浅草寺に遷され、代わりに二の丸東照社が作られ、寛永14年(1637年)に本格造営が完成した。それに合わせて二の丸東照社に狛犬一対がおかれた。正保2年(1645年)東照社に宮号が宣下され「東照宮」に。承応3年(1654年)に二の丸東照宮は修造された紅葉山東照宮に合祀され、旧社殿は川越に移築され、残された狛犬や手水鉢などは一緒に仙波東照宮に遷された。この狛犬は、建立年は分っている石造り狛犬としては「東日本最古」の物と云えます。



### 目黒不動尊の狛犬

東京都内で最も古いとされる石造りの狛犬と云われるのが「見黒不動尊の狛犬」です。承応3年(1654年)建立と云われ、狛犬というものに対するある程度の知識や手本があった江戸の石工たちが作り出した「民間狛犬」という位置づけが出来ます。胸にベルト状のものが認められ、南大門タイプの宗風中国獅子の影響も受けていると思われる作りです。結果として、公家文化から生まれた木造狛犬のコピーではなく、独自の形状に仕上がったところが評価できます。



### 千葉県の最古の狛犬

千葉県で最も古い狛犬が置かれているのは、長生郡長柄町の飯尾寺です。飯尾寺の狛犬は在銘が寛文10年(1670年)と刻まれており、千葉県では最古のものに数えられています。狛犬は、両足を直立させ、胸を張った姿は素朴ですが、力強さを感じさせる物です。飯尾寺には他に波の伊八が晩年に彫ったという欄間があり、円熟した技巧を十分発揮している。



### 市原市内神社・寺院の石製狛犬紹介(所在住所は参考資料面56P~60Pに記載)

#### 高瀧神社の狛犬

高瀧神社には狛犬は2対置かれています。拝殿前の狛犬の建立時期は寛延元年(1748年)で市内では2番目に古い石製狛犬で、分類は江戸尾立型です。笑いが聞こえて来そうな大口をかけた姿が愛らしく、270年前とは思えない姿をしています。巨大な眼、あごが外れそうなほど開けた口が経年劣化で落ちていないのは石工の腕が良いと思われる。



境内側道入口からの入口を守る昭和 12 年 (1937年) 建立の江戸狛犬が置かれている。狛犬自体の出来栄は江戸から大正期の狛犬には劣るものの、細部の彫刻は非常に丁寧で高い技術を持った石工が制作したと思われる。千葉市の穴川神社に祀られる狛犬と似ており、同じ石工が制作したのと思われる。



#### 飯香岡八幡宮の狛犬 (八幡・市原地区)

拝殿前に置かれているのは建立年不詳の江戸尾流れの狛犬です。尾は狛犬の身体に張り付いており、市内八雲神社と五井大宮神社の石工根本吉輝作の物に似ていますが、なぜか「左吽像には安藤硯年・堀口弥吉」「右阿像彫刻 根本吉輝」と 3 人の名が刻まれており、もしかしたら左右で違う石工が手がけた可能性もある。



市原市で最古の木製狛犬がこの神社に安置されています。造立年は貞享3年5月(1686年)で、石像ではなく寄木造りの狛犬です。神殿内に安置されていたもので、ほとんど傷んでおらず誠に見事な狛犬です。像全体は、金色に彩色されたもので、現在も鮮やかに残っています。均整のとれたすらりとしたスタイルですが、風貌はやや鋭さが欠ける感じがします。頭髪は長く垂らし、先端は軽く巻かれています。目はドングリ目で、阿像の大きく開いた口の中には朱色が未だ残っています。前肢の逆毛が顕著に掘り出され、先端は軽く巻毛となっています。前肢の筋肉が綿密に彫られており、力強く足を踏ん張っている様子が表現されています。市原市内では最高傑作の一つの逸品です。寄進者は、八幡町の田中佐助と勢州安濃郡の川口助兵衛が貞享3年5月に奉納したと記されています。飯香岡八幡宮由緒本記によると「貞享三丙寅五月當社殿隨犬一對願主上総国市原郡八幡郷住人田中佐助、勢州安濃郡津八幡町住人川口助兵衛兩人祈願成爾依豆奉寄進者也」と記されています。(勢州とは伊勢国のこと)



**郡本八幡神社の狛犬** 神社の拝殿前にはどっしりと構えているのは延享5年(1748年)建立の石造狛犬で、市内で二番目に古く、一番大きなものが置かれています。この年代でこれだけの巨体の狛犬は珍しく、そのデザインはおそらく木造の社殿狛犬を模して作られたことが創造できます。江戸尾立の初期型と思われる。尾は木造狛犬の複雑な組み合わせを石に再現したもので、残念ながら細かな彫刻が欠けてしまっています。狛犬の近くには天和3年(1683年)の手水鉢があり、この神社の歴史を感じます。



**府中日吉神社の狛猿** 日吉神社の神の使いは「猿」と云われ、この神社は狛犬ではなく「狛猿」を置いています。

昭和62年の本殿改修の際に建立されたもので、狛猿は鳥居をくぐり階段を上った所に置かれています。愛嬌のある顔立ちですが、左右とも口を結んでおります。猿の像の高さは990mmあり、市内の狛猿としては大型の部類に入ると思います。容貌も間抜けた風貌で締まりなく、何よりも全体の姿が犬と同じ形ではなく、猿独自の決まった形がないので残念に思う。体毛の彫りにも工夫がほしい狛猿です。猿の狛犬は市内の他の神社では「海保神社」と「勝間日枝神社」にあります。



**能満 釈蔵院の狛犬** 寺院に狛犬があるのは珍しいと言われますが、なぜかこのお寺には1対の狛犬が置かれています。江戸尾流れ型の狛犬で、台座には天保2年(1831年)に建立されたと思われる。元は菊間の若宮八幡神社に置かれていたもので、明治20年に八幡神社改修の際に神社の都合で釈蔵院に移築されたと云われているが、別の話もあるようです。狛犬は、参道階段を登った所に置かれています。重量感のあるつくりで、総体的に角ばった彫りです。阿吽像共に前足が太くがっしりとした感じを出しているが、これ以上彫ると石が割れる恐れがあるので避けたと思われる。阿像の顔は下顎部分の造りが不自然で表情が冴えない。流紋の彫りも角を残しているため、上面が平らな台状になっている。全体的にやや肥満形で、もう一つの彫り込みが足りない感じがし、鋭さに欠ける結果になっている。



**古市場 天神社の狛犬** 天神様のお使いは牛なので守護獣として牛の狛犬が置かれています。この狛牛は、明治44年(1911年)に建立されたものです。この狛牛を見ていると優しい目がゆったりとした穏やかな気分になり、気持ちも和らぎます。神社の聖域を守る魔除けとしては威厳を感じませんが、天神様の前に安置されると安堵感を感じます。顔はやや中央に曲げ、尾はおとなしく前に伸ばしています。前肢は二つに折り、胸の肉ずきも柔らかそうです。左右とも同型で、明治44年の造立ですが、もっと古くからあったとも感じます。左側の牛の角が欠けているのが残念です。



大厩 駒形神社の狛犬 市原市内で石像の狛犬では最古の元文5年1月(1740年)の建立という。江戸 尾立ち型の狛犬で、安山岩が素材です。顔は唐獅子風のものとは全く異なる容貌をしており、目は大きく剥いているのが特徴です。呬像は口を閉じていますが歯を剥き出しており、他の狛犬とは少し趣きが違います。頭髪はオカッパ封に肩の辺りにまで長く垂れ下がり、流れ紋となっています。眉毛も目の辺りに垂れ下がっています。毛の部分はやや彫りが浅く、線彫りの感じがします。尾は扇状にやや広がって垂直に立ち、呬像の尾は半分欠けています。この狛犬は、ユニークな顔つきの中にも猛々しいさが見られ、力強さを感じ、社殿を守るのにふさわしい狛犬です。また、台座がはめ込み式になっており、他の狛犬には見られない造りです。280年も経てもほとんど風化していなく、良好な状態に保たれているのは石質の良さと思われる。



菊間若宮八幡神社の狛犬 子の神社には3対の狛犬があります。本殿前に置かれる狛犬は、典型的な岡崎狛犬で平成年4月の建立されています。高さは98cmあり大きく堂々とした風貌です。しかしながら、子獅子の造りが今一良くないのが残念です。顔の両側に様式化された大きな巻毛の玉が何個も付いている。大きな団子鼻、鋭い眼つきは狛犬としての迫力はある。



菊間若宮八幡神社の2対目狛犬は、本殿軒下に鎮座する木製寄木造りのもので、建立時期は不明ですが、かなり古そうなものと推測されます。また、境内摂社の木兔社の社殿前に置かれる狛犬も見た目素人の制作によるものと思われるが、神社の守り神として頑張っているようです。



右側は木兔社木造狛犬  
左側は本殿入口木造狛犬



山木 白幡神社の狛犬 白幡神社拝殿前狛犬は昭和34年の建立で岡崎型狛犬です。阿像の表情は実に味わい深く彫られている。しかし吽像は口で巻物か何かを加えているようで、下あごが不自然です。前肢が太くがっしりとした石像です。また巻毛もたつぷりと彫られ堂々としています。



## 五井地区 岩野見水神社の狛犬

岩野見の水神社には、昭和2年(1922年)建立の狛犬が拝殿前に置かれています。江戸尾流れづくりのこの狛犬は、子育て中の狛犬像です。阿像の足元には必死に親の乳を飲み続ける子獅子がいます。どのくらい必死かと言うと引っ張った母獅子の乳が伸びきってしまうほどで、子獅子の後ろ足が台座から落ちかけているようです。狛犬は昭和初期に作られた狛犬らしく、江戸尾流れと岡崎狛犬の混合的なデザインです。両耳が角のように左右がピンと立っている姿も勇ましく、前足には力がみなぎっています。全体的に細かいところにこだわりを感じる江戸狛犬です。



## 根田神社の狛犬

根田神社の狛犬は、天保8年(1837年)に建立された江戸尾流れ型の狛犬です。風にたなびく美しいたてがみを持った見事な江戸狛犬です。古くから地元鎮座する歴史ある神社に相応の狛犬と思われる。阿像の足元には、背を思い切りのけぞらせた子獅子が、親の手から逃れすり抜けようとしているように見え、また、子獅子の顔はよく見ると親にすりよっているようにも見えます。凛々しい表情の中にも穏やかさも兼ねそなえた顔立ちも見事です。約2百年間の風雪にさらされながらほとんど欠損がないことから、石材も厳選されて作られたもので、逸品名狛犬です。



戸隠神社の狛犬 惣社に建つ戸隠神社には4対の狛犬が置かれています、最も古いのは拝殿前に建つ2対の内手前の1対で弘化4年(1847年)建立の、江戸尾流れのもので、200年前からこの地を守り続けて、彫りの高さは無いものの、全身に隈なくたてがみがいきわたり大変美しい文様になっており、その隙間にも丁寧に体表の彫刻が彫られています。顔も平らな形になっているが、結果として凸凹が少ないこともあり200年前の物とは思えないほど原型が保たれています。たてがみは規則性が無いようで、離れて見るとまるで模様のように見えてくる見事なデザイン力です。残念ながら石工の名前は刻まれていませんが、地元石工の手によるものとしたら市原石工の技術の高さを伺わせる出来栄です。



拝殿前にもう1対の狛犬が置かれています。この狛犬は平成8年(1996年)に奉納された岡崎狛犬の尾立型のもので、中国産であろうか体形のバランスや全体のデザインはそれほど悪くはない。狛犬の目が入れてありませんが、やさしく感じる作りです。



摂社浅間神社前に置かれる小型の狛犬です。岡崎狛犬の尾立型で、阿像の手前手元には手玉があります。また吽像の方には子犬を手で押さえて遊びに出ないようにしているしぐさが楽しく見れる。



境内摂社前にある岡崎狛犬の尾立型です。平成9年(1997年)に奉納されたもので、戸隠神社には岡崎狛犬が3対鎮座しています。この神社の氏子さんにとっても大切にされていることが伺えます。



**五井若宮八幡神社の狛犬** 五井若宮神社の拝殿前に置かれる狛犬は、石工は八幡の「佐平」によるもので、明治41年(1908年)に建立されたものです。ずんぐりとした体格の江戸尾流れ型のもので、身体を覆うふっさりとした鬣(りょう)、台座の先端まで流れ尾も美しい。厚ぼったい唇の柔和な顔立ちは正面より側面の方がかっこよく見えます。阿像の子犬は甘えるように上向き加減で可愛らしい。大きく横広がる耳と云い、石を隅から隅まで目いっぱい使って彫り上げた感がある。台座には「修繕」と刻まれており、台座を修繕したようで修繕の年が転記されていない。



拝殿の後方に境内摂社の八雲神社があり、その拝殿前に置かれるのは、江戸尾流れ型の狛犬で、建立年は大正13年(1924年)と刻まれており、石工は「松田助次郎」となっています。立派な台座とは若干不釣り合いな小さな高さ50cmほどの狛犬です。全体的に彫りは浅く、体のバランスは悪くないものの、たてがみ、尾の表現共に簡易的な感は歪めなく思う。顔立ちを見る限り、狛犬を彫りなれた石工のように見受けられる。



**富貴稲荷神社の狛犬** 稲荷神社には狛狐が定番ですが、この富貴稲荷神社には江戸尾流れ型の狛犬が置かれています。また、獅子が山に置かれている神社で、2対の狛犬と境内摂社の金毘羅神社のまえには、天保4年(1833年)建立の小さな狛犬が一体置かれており、狛犬ファンに人気のスポットです。拝殿前に鎮座する狛犬は江戸尾流れ型のもので、柔らかな曲線で描かれたボディーラインからしなやかさを感じさせる体形が見事です。背中に流れるたてがみも風になびいているかのようであり、尾先は、台座の身体の上へ伸び、毛先まで美しい。半面顔立ちはやや淡泊な印象ではあり、巻き毛の高さもあまりない。地元の石工が制作したようで、江戸狛犬の技術を学び、作られたものと思われる。





**岩崎稲荷神社の狛犬** 養老川河口付近に建つこの稲荷神社は、平成17年の土地区画整理事業によりこの地に遷宮された。ここに置かれる狛犬は2対あり、手前に遷宮時奉納された真新しい狛犬と文政4年(1821年に建立された江戸尾立ち型のものが置かれております。阿像の頭には宝珠が見られ、年代的にも江戸尾立ち全盛期のものと思われます。身体を支える前足はまっすぐに、そして力強く体を支えており、若干張り出した胸からも神殿狛犬を模した狛犬と思われます。彫りはそれほど深くなく、若干平坦な印象を受けます。江戸石工の手によるものでなく、江戸石工の技術を模した地元の石工の手によるものと思われる。石質の性が海沿いの性が破損が進んだ狛犬が多い地域ですが、この狛犬は風雨に耐え、保存状態も良いことから質の良い石で作られているようです



この稲荷神社に2百年前の狛犬の前に真新しい岡崎狛犬が置かれています。定型的な岡崎狛犬ですが左の吽像の足元には子供の狛犬があり、子供の表情も丁寧に彫り込まれており、右の阿像の足元の毬の模様も描かれており、大変良い出来栄えと思ひます。石材の白い花崗岩も、もう少し風雨にさらされれば風格の出るのではないかと思ひます。



玉前稲荷神社の狛犬 鳥居の先で迎えてくれるのが岡崎狛犬の尾立型で、おそらく中国産のものと思われる。しかし台座には「天保15年(1844年)建立のものが以前は置かれていたと思われる。これは市原市教育委員会が出版している「市原の狛犬」では、ずんぐりとした全高50cmほどの江戸流れの狛犬が置かれた写真が掲載されています。



天保年間の狛犬写真  
教育委員会の「市原  
の狛犬」より写真を  
提供



現在の狛犬の阿吽石像

出津 八雲神社の狛犬 出津八雲神社の狛犬は、ずんぐりとした体形の江戸尾流れ型のもので、大正時代の建立の狛犬で、「根本吉輝作」によるハイブリットタイプの狛犬です。表情豊かな彫刻は、なかなか憎めない顔立ちで特にどことなく笑っているように見えます。またボリュームのある体形のおかげか頑丈であるかのようで、破損している部分が見られない狛犬です。身体を覆うたてがみの表情は乏しく、全体の彫りも浅いため勇壮な狛犬には見えないのが残念です。



松ヶ島 養老神社の狛犬 弘化5年(1848年)に建立された江戸尾流れ型の狛犬です。阿吽像共に顔の部分が大きく破損されているのが残念ですが、原因が風雪によるものか、落下によるものかは不明。吽像は手玉取りのもので、模様が丁寧に施されていますが技術的には今いちかと思われます。阿像の足元には子狛犬がありますが、これを一見すると首が逆さになっており、子が親に甘えているようなしぐさで、ものすごく上を見てのけ反っているように見えます。ここまで表現できるだけの技術力があり、愛嬌のある狛犬です。彫りはやや浅く、五井周辺で江戸狛犬のたてがみて彫りが深く、渦高いものはあまり見られない。



青柳 若宮八幡神社の狛犬 五井周辺では、最も江戸狛犬らしい江戸尾流れ型です。建立時期は弘化5年(1848年) 奉納者が「江戸堀江町」「深川木場石工 源兵衛」と刻まれていることから、江戸の石工の手によって彫られて海路で運ばれてきたと思われる。建立年から見てこの狛犬が、市原の石工にとっての江戸流れのお手本になったと思われる。狛犬はもちっとした唇と、ずんぐりとした体形は若干「カバ」を思わせる感じもするが、全体の体形のバランスはよく、かなり熟練した石工の仕事と思われます。鬣(りょう)が全身を覆いながら流れていく様は江戸狛犬特有の美しさがあり、五井周辺の狛犬の中でも屈指の出来栄です。

もう1対の狛犬は平成11年建立の岡崎狛犬(尾立)型で、丁寧なつくりとバランスの良い体形からみて国産のものと思われる。型は典型的な岡崎狛犬であり、特に子犬の狛犬に愛らしさがないのが残念です。子供にはもう少し可愛らしいリアクションをつけた方が良いと思われる。



島野 島穴神社の狛犬 島穴神社の狛犬は、文政8年(1825年)の建立で拝殿前に置かれています。江戸尾立型のもので、立派な大きな口を開けたものですが、「首が短い」というか首のない胴体に顔が付いたようなデザインが、なんとも可愛い狛犬です。尾の文様は、どこことなく館山市の鶴谷八幡宮の狛犬に似ているので、同じ石工の作によるものと思われます。右の阿像の狛犬は側面から見ると下あごが外れているように見えるが、しっかりと残っており単に大口を開けているものでした。200年前に建立されたものとは思えないもので、よほど良い石で彫られたものと思われる。



五井 大宮神社の狛犬 境内には4対の狛犬が置かれていますが、大正年間と昭和・平成年間のものがあります。最も古いものでは大正2年(1913年)の建立のもので、江戸尾流れ型で石工は「中西幾三郎」のもので拝殿前に鎮座している。この狛犬は、やや細身できゃしゃな体つきに見えるが、精悍なスタイルであり、そんきよの姿勢の体形はネコか犬のように見える。顔立ちも、ちょっと爬虫類っぽい気もするが、野生の獣らしい猛々しく感じます。全体的には簡単な作りですが、たてがみや尾の毛並みはきれいに彫り込まれており、高さもありシンプルながら素晴らしい狛犬です。右の狛犬の足元には、子狛犬が甘えて母親のおっぱいを懸命に飲んでいる姿が彫られており、大切な子に添えられた親の手がやさしく添え

られている。乳を飲む狛犬は市内にもいくつか見られるが、石工と奉納者の子供に対する思いが真垣見える狛犬で、非常に暖かい気持ちにさせてくれています。



下の写真は拝殿前の2対の狛犬の内の大正11年に建立された狛犬です。江戸尾流れ型の石像で、建立年が阿像は11年、吽像が12年とずれがあり大変珍しく、奉納が一年ずれて行われたのか、作られたのが年を跨いでおり台座に二つの年が彫られたのか興味のあるところです。狛犬の姿勢は良いそんきよですが、たてがみや尾の彫刻は最低限に止められており、全体的に淡泊なつくりと思われる。しかし、顔つきを見ると非常に精悍で迫力のある獣らしい顔立ちです。尾の巻き方は非常に美しく、技術的に劣ることはなく、簡易的に作られた可能性が高い狛犬です。



境内には3対の狛犬が置かれていますが、最初に迎えてくれるのが鳥居脇に置かれる真新しい岡崎尾立型の狛犬です。建立年は不明です。国産か中国産かは微妙ですが出来栄は良いものです。しかしながら、なんとなく空虚な印象が受けてしまうのは真新しい石の性か、それとも滑らかな作りのためなのか、魂がこもってなく感じる。(左下側の写真)

また、脇参道入口に置かれる狛犬は、令和3年(2021年)に奉納された岡崎尾立型の石像で、石工は「勘三郎」と刻まれています。巨体の狛犬としては全体のバランスも良く、石工の腕前が確かなものと伺えます。顔つきを見ると中国産の狛犬のようにも見える。(右下側の写真)



西野 熊野神社の狛犬 この狛犬は明治12年に建立された狛獅子で、体形の大きさにわりに顔が小さく、猿のような顔をしています。連獅子の頭の毛のようにこんもりとした髪の毛は後ろに長く垂れています。体形は堂々としているが、子獅子の肩に親獅子の前足は細く弱々しく感じる。子獅子はイルカの子供のような形で、肩にかけた親の前足は水かきのように見える。尾はほとんど身体に張り付いたように彫られている。卍像の顔は原型がわからない程破損をしており、風化が進んでいる。



村上 諏訪神社の狛犬 この神社には3対の狛犬が置かれています。一番古い狛犬は明治42年に建立された狛獅子で、容姿は怪奇で狛獅子の表情とは思えない顔をしています。石質が悪いようで年代のわりに痛みが激しい石像です。阿像の鼻の部分が欠けており、前足が欠けたせいかセメントで補修してあります。頭部のもみあげが横に大きく張り出している。尾は線彫りで身体に張り付いている形です。体毛の彫りも線彫りで、明治時代の建立にしては田舎の石工の作品と思われ、狛犬らしい勇猛さが無い。



2対目の狛犬は獅子型で大正10年に建立されたもので、石段中間付近に置かれています。昭和時代の典型的な様式の走りと思われる形態です。頭部の髪がライオンのたて髪のように張り出して、こんもりと盛り上がりおり頭が大きく見えます。古い時代の狛犬は身体の大きさに比べると頭は小さく作られていますが、近代の狛犬は徐々に頭部が大きくなってきています。体毛の彫りも大変丁寧なものです。また、石材も花崗岩はこの時代としては珍しく、石材が固いため細かい彫りが当時の技術では無理だったと思われ、やや不満が残るものです。



3対目の狛犬は獅子型で昭和60年に建立されたもので、拝殿前に置かれています。昭和の典型品で岡崎狛犬型でよくまとまっています。同じパターンとは言っても細部については少しづつ特徴があり、右の狛獅子は大きく開いた口の上に牙があるが、下あごにはない。頭はやや大きいと全体的にバランスのとれた出来栄です。小型ですが迫も感じられる狛獅子です。



廿五里 若宮八幡神社の狛犬 獅子型の狛犬は安政3年(1856年)に建立されたもので、阿像は顔の部分が破損している。子獅子の頭部は風化しており甚だしく溶けたような状態ですが、吽像の方は割合しっかりとした状態で、風化も特に見られない。背の高さの割には横幅が広く感じられます。唇は大きく分厚い、目の上には大きな渦毛がありやさしそうで、大きな顔が親しみを感じる狛犬です。巻毛はほとんどなく、長く流れるような体毛は彫りが浅く、身体全体に彫られています。尾は小さくほとんどお印程度に付いていますが見栄えはしない。



廿五里 宇佐八幡神社の狛犬 この八幡神社には2対の狛犬が置かれています。元の拝殿前に置かれる狛犬は天保15年2月に造立された安山岩製の江戸尾流れ型です。背中を丸めて老婆のような顔をした狛犬は、冴えない形態をしています。従って彫刻的にはあまり良い出来のものとは言えません。たて髪が背中の方までかぶさり、平面的な渦紋を造っています。目の上には左右に二つの大きな渦があります。阿像の抱いている子獅子の出来は余り良く彫られていませんが、子獅子の尾がこれほど長く彫られているのは珍しいと思います。背中の方は彫られていなく、ハの字型の尾も貧弱に見える。巻毛の彫りも浅く、子獅子を抑えている左肢の細工も今一と感じます。



宇佐八幡神社の現在の社殿は、高速道路用地の関係で現在の場所に遷座され、狛犬等も新たに造立されたものです。狛犬は岡崎狛犬で、尾立ち型です。



柳原 大鷲神社の狛犬 大鷲神社の狛犬は、明治42年10月(1909年)に造立された江戸尾流れ型のもので、石工は「根本吉輝」と刻まれています。石質は安山岩で、大きく堂々とした狛犬です。大きな耳が横に付いているのが目立ちます。漫画のノラクロに似た顔をしています。全体のバランスは良く、まずまずの狛犬です。尾は後ろで左右に分かれ、何よりもこの台座石のすばらしさものです。石工の根本吉輝は八幡の飯香岡八幡宮の狛犬にもその名が刻まれており、姿や形は同じですがこちらの狛犬の方が10年ほど前に造立されたものです。



町田 熊野神社の狛犬 拝殿前に置かれるこの狛犬は、安山岩で掘られた江戸尾流れ型のもので、造立年は不明ですが、形から江戸時代後期の頃かと思われます。上唇・下唇共に厚く、やぼったい顔をしています。そのためか狛犬としての厳しさに欠けており、青柳の八幡神社や勝間の日枝神社のものと似ており、江戸時代のものに間違いのないと思います。ただ吽像の顔は破損しており、表情も良くわからなく残念です。また阿吽像の頭の上には穴らしきものがある。髪の毛は長く背中の方にまで彫られている。また阿像には背骨の骨が数個掘り出されている。吽像には顎鬚が見られます。阿・吽像共に、後肢の爪が大きく彫られています。尾は後ろで筒状に巻かれており、台座に長く彫られている。



**海保神社の狛犬** 海保神社には4対の狛犬が置かれており、獅子型のもので慶応2年9月(1866年)に建立されたものが2対ある。石工は「青柳村の佐吉」と刻まれています。作風は、田舎風のおいがする何となく温かみを感じる狛犬と思います。厚い唇、愛嬌のある顔つき、短い肢は決して洗練されたスマートさはない。目の上には大きな渦毛があり、目が小さいので渦毛を目と見間違ってしまう程度です。尾は平面的に立ち上がって左右二つに分かれています。彫りは四角張っており、毛の彫りも浅い。後肢の部分はかなり省略されていますが、渦毛は丁寧に彫られています。子の狛犬は、参道石段下に鎮座する狛犬で、同年代のものが拝殿前にも置かれていて、奉納者は氏子中となっています。鳥居先の石段の下に建立されている狛犬です。拝殿前と同時期に造立されており、慶応2年のものです。江戸尾流れ型のものです。



参道入口の鳥居先の狛犬

参道途中に置かれる小型の狛犬です。明治33年11月(1900年)の造立された石像で、彫りは余り良くなく、阿吽像共に口の部分が欠けており、阿・吽の区別がはっきりしません。尾の形からして江戸尾流れ型と思いますが、尾の彫りも浅く感じがする。



参道途中に鎮座する狛犬



拝殿前の慶応2年造立の狛犬

海保 浅間神社(海保神社合祀社) 海保神社の境内西側に浅間神社が合祀されており、その参道入口に狛犬の石像が1対置かれています。」左右とも頭部がなく寂しい限りです。この狛犬は明治11年(1878年)に造立されたもので、本来は日枝神社の神の使いとして置かれたものと思いますが、浅間神社の前に置かれているのは不思議に思います。左側に日枝神社の石碑があるので、何かの理由で両社が入れ替わったと思われる。市原市内に猿の狛犬が置かれているのは3か所で、能満の府中日吉神社、勝間の日枝神社と海保の浅間神社のみです。



残念ながら左右の狛犬の頭部は欠けている

今富 八幡神社の狛犬 この神社の狛犬は2対置かれており、いずれも三山登山記念に奉納されたもので、地元の石工「橋本七之助」により大正5年8月(1916年)に建立された江戸尾流れ型のやや繊細な感じの狛犬です。肩の辺りに見られる渦毛は大変見事なものです。横に張り出した耳は大きく、眉毛も渦巻きになっています。目はやや奥目で鋭い目つきです。前肢が細い感じがします。逆毛できれいに彫られています。尾は後ろで左右に渦を巻きながら分かれて、台座に彫り込まれています。地元の石工が丁寧に彫られ、風化も少なく良い状態で保存されています。



もう一対の狛犬も、大正14年10月(1925年)に三山登山記念で奉納された江戸流れ型のもので、石工は中西三郎と刻まれています。像形は大正型の典型パターンのもので、卍像はやや肥満体で、石が大きい割には重量感が感じられない狛犬です。顎鬚が二つの渦巻きになっており、愛嬌のある表情です。尾はロール状に巻かれ、派手な渦巻きではない。



市津地区 瀬又 八幡神社の狛犬 この神社の狛犬は天保15年8月(1844年)の建立で、江戸流れ型のもので、神社は小高い丘の上に建ち、狛犬は長い階段の途中に置られています。珍しいのは、左右とも口を開けていてどちらが阿像か不明です。尾は左右分れて大きく渦を巻きながら長く前に伸びています。後ろから見ると金魚の尾のような感じで、尾の一部が台座にまで彫り込んでいるのが特徴です。平にまき、口を大きく開け首をやや左に回して厳しい表情を見せている。前面の彫りは十分ですが裏側は浅く、特に左側の像はほとんど平面的な彫りとなっている。重量感を保つために省力されたとも考えられる。全体的に保存状態の良い狛犬です。



潤井戸 白幡神社の狛犬 この神社の参道の階段を上った所に置かれる狛犬は、大正11年10月(1922年)建立の江戸尾流れ型のもので、昭和初期の典型的な造像となっています。石工は浜野の「石哲」で石材は花崗岩で、市原市内では最も早い時期のものと思われる。全体的な彫りはまあまあですが、身体全体がやや細味に造られており、後肢の彫りは不十分です。吽像の顎鬚は老人の髪のようにも見える。



荻作 荻作神社の狛犬

荻作神社拝殿前に置かれる狛犬は、安山岩で嘉永7年8月(1854年)に建立された江戸尾流れ型の狛犬です。石工は「安藤佐平治」と刻まれています。拝殿前にはもう一つの狛犬で昭和17年建立の狛犬に拝殿側におかれている。四角の石材から掘り出されており、そのまま四角の形をしています。したがって彫りが浅く迫力が物足りない感じをする。顔は柔和な感じで厳しさは見えない。尾の形は掘り出されてはおらず、線彫り程度です。しかし、先端は台座にまで伸び、深く掘り出されています。流れ紋の形は面白いが、肢や胴の表現は弱く感じる。



もう1対の狛犬は、昭和17年(1942年)に建立された安山岩で彫られた江戸流れ型のものです。石工は不明ですが大正型に近い昭和の建立です。容姿は嘉永7年のものによく似ているので、参考にして彫られたものと思われる。しかしながら顔に鋭さがなく、柔和な感じを受ける。尾は横に二つに分かれて台座に見事に彫り込まれています。



参道入口の鳥居の奥に鎮座する岡崎狛犬の石像

**小田部 熊野神社の狛犬** この神社の狛犬は2対あります。社殿前に置かれているのは平成になり社殿改築の際に造立されたもので、岡崎狛犬です。以前より置かれていた安山岩製の狛犬は、社殿右側の境内祠と並べられています。この狛犬は、明治13年10月(1880年)に建立されたもので、江戸尾流れ型のもので、風化も進んでいますが全体的にはまだ石の形はそのまま残っていますが、四角い形をしていて彫りは充分ではない。何となく田舎風の泥臭い感じの彫り方で、地元の石工の作品と思われる。特に右側の阿像が抱いている子獅子はイルカの子供のようで、陳腐な形をしております。尾は左右二つに分かれて渦巻きをつくり、各部分にも渦巻きが見られます。阿像の右足は太く重厚な感じがしますが、それに比べて左足は彫りが浅く、バランスが良くないが、目は上目使いで厳しく、顔全体を引き締めている。



**勝間 日枝神社の狛犬と狛猿** 日枝神社の狛犬は3対あります。1対目は鳥居の先に置かれており平成になってから建立された岡崎狛犬です。社殿前には天保2年(1831年)に造立された江戸尾流れ型の狛犬が置かれています。上顎部が肉厚に掘り出されているので容姿がやぼったく感じます。阿吽像とも前肢がやや大きめに造られ、爪は大きくはっきりと掘り出されて象の足のようで不釣り合いに見える。阿像の顔半分が欠けており、阿・吽の別が分かりにくく、風化が進んでおり銘文が読みにくい。



日枝神社の守護神の狛猿が社殿前に建立されていました。この狛猿は、平成16年に「出羽三山奉拝17回記念で奉納」されたものです。左の狛猿は子猿を抱いており、子育ての母親猿かと思われる。



**神崎 稲荷神社の狛犬と狛狐** 狛狐は天保9年6月(1838年)の建立された狐の狛犬ですが、市内では最古のものと思われる狐の石像で、右側の狐の顔半分が欠けており、尾も上部が欠けている。また、左側の狐は尾の部分が欠けて、耳も欠け全体的に破損の程度がひどい状態です。全体的に彫り口は単純で、細かな部分の細工が物足りない。欠損した部分の補修はセメントで行われている。



現在の社殿は、平成9年12月に再建されたもので、その際に建立された狛狐も拝殿前に鎮座されています。旧社殿は、現社殿の左側にあり、当初の狛狐はそちらに置かれています。



**葉木 妙見神社 (通称葉木神社)** 参道の階段を上った所に置かれる狛犬は、弘化4年8月(1847年)に造立された狛犬です。石質は安山岩ですが、140年前のものとしては風化が激しい状態です。台座には「弘化4年」の奉納銘がはっきり残っているのに、狛犬の形がこのような状態なのは壊されたということも考えられます。阿像は狛犬の原型はとどめており、子獅子の形も分かりますが、吽像の方は石の塊のようにしか見えない。



社殿前には昭和26年に造立された狛犬が置かれている。この狛犬は江戸流れ型のもので石質は安山岩です。石工は浜野の「両国屋」と記されており、昭和の典型的な形のものとは異なります。戦後の疲弊した時代に合って、このような立派な狛犬が建立されたことは極めて意義深いものです。しかしながら、目が渦巻きになっていて精気が弱く、巻き毛はややおざなりで子獅子の表情も弱く感じる。



**喜多 喜多神社の狛犬** 喜多神社の拝殿前に置かれる狛犬は、大正5年10月(1916年)に造立された安山岩製の江戸尾流れ型のもので、石工は「高橋七之助」となっています。全体的に苔が付いて古色の趣きのある狛犬で、彫りは丸みに欠けていますが、むしろ素朴な感じをします。阿吽像共に前肢が大きく、全体としてのバランスが悪くなっている。尾は後ろで大きく倒れて流れた形です。顔の容姿には厳しさはないが、近代的な感覚の顔と思われる。



吽像の前足の下には子獅子が彫られている

**金剛地 熊野神社の狛犬** この神社の狛犬は安永2年6月（1773年）造立のもので、石質は安山岩です。江戸尾立型で、氏子の方から送られた赤色の前掛けが可愛らしい。顔立ちも狛犬としては厳しさに欠け、むしろ前掛けの影響かユーモラスに感じます。頭部は皿のようになっていて穴が開いていて、前髪が短く切り揃えられ河童のようです。阿吽像共に牙を剥いている、吽像は口を閉じてはいるが、牙が口からはみ出している。台座は嵌め込み式になっており、大厩の駒形神社のものと同じ作りです。尾は、扇形に大きく開き、直立しており非常に特徴的な形をしています。巻毛は余り多くなく、吽像の巻毛は彫りが浅い。耳は両側にほぼ水平に張り出した特質な形をしています。そのため破損しやすいと思われ、阿像の耳は欠けてしまっている。普通狛犬の足の爪までは細かく掘り出されていませんが、この狛犬は足の爪まで丁寧に彫り出されています。



**犬成 犬成神社の狛犬** この神社の狛犬は、嘉永7年11月（1854年）の造立されたもので、石質は安山岩で石工は「安藤佐平治」と刻まれています。形は江戸尾流れ型で四角の石材をそのままの形で狛犬に彫られています。そのため彫り込みは浅い部分が目立ちます。特に裏面の巻毛の彫りが浅い。顔立ちは厳めしさに欠け、眉毛と顎鬚のカーブに特徴があります。頭の上部分は平坦になっており、耳は折れて後にたれています。阿像の子獅子を抱いていますが、形があまり良くない。阿像の鼻の部分が欠けている。



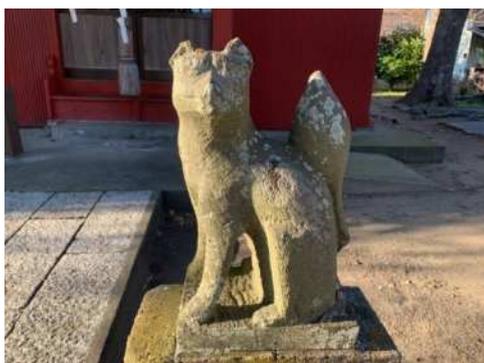
姉崎地区 姉崎神社の狛犬 姉崎神社には2対の狛犬が置かれています。拝殿前に置かれる狛犬は文化6年6月(1809年)造立の江戸尾立型のもので、石工は阿像が「大嶋久兵衛」で吽像が「辰右衛門」と刻まれています。阿吽像共に頭の上へこみがあり、阿像の穴は丸穴で吽像の穴は角穴となっています。巻毛が矢車のような形に線彫りになっている独特な形式です。尾の形は火炎形で、巻毛も彫られていて面白い。前肢はすらりと長く、離れて見ると今にも飛び出しそうな躍動感を感じます。



もう1対の狛犬は、参道石段上がった所に置かれる狛犬で、昭和4年10月(1929年)に造立されたもので、典型的な大正型の狛犬です。大きな肉厚の耳が横に張り出し、顎が長く横に裂けた口が大きく開いています。顔から直ぐに前肢と言った感じで、胸の部分はほとんどなく、吽像の後肢は途中で彫るのを止めたようで未完成の感じがします。尾は笏の形をしていて、背中に張り付いたように彫られている。しかし全体的には質の良い安山岩を使って、十分に彫られており、まずまずの出来栄だと思います。



今津朝山 飯奈里神社の狛犬 この神社は稲荷様を祀るもので、狛犬ではなく狛狐です。台座には明治17年4月と刻まれています。狐の石像の方には昭和34年戸記されていますので、台座だけ当初のものを使用し、狐像は何かの都合で昭和34年に作り直したものと思われる。全体的の形は良いが、彫りは粗雑に感じます。



今津朝山 浅間神社の狛犬 飯奈里神社の合祀社の浅間神社に置かれる狛犬は、安政3年4月（1856年）に造立されたもので、江戸尾流れ型で石質は安山岩製です。石質が悪く風化がひどい状態で、阿像の口の部分が破損している。吽像は右前肢が折れています。背骨がくっきりと掘り出され、背骨が掘り出されている狛犬は比較的多いが、この辺りが妙に写実的な割りに尾の渦紋などが装飾的です。尾はイルカ型です。



椎津 八坂神社の狛犬 この神社の狛犬は文政2年6月（1819年）に造立された江戸尾立型のものです。石質は安山岩で石工は「大嶋久兵衛」となっています。分厚い唇で風采の上がらぬ田舎者といった感じの狛犬です。太く大きな前肢、大きな爪、そして大きく前に出た胸などどれをとっても愚鈍な感じを受けますが、素朴さは誠に得難いものを感じます。阿像の頭部にはこぶ状の突起がありますが、吽像にはありません。尾は小判型で縦に線が入り直立しています。渦毛は線彫りで彫りは浅い。



椎津 金毘羅宮の狛犬 八坂神社の境内で合祀されている狛犬です。造立年代は不明ですが拝殿前に鎮座し、守り役として頑張っているようです。像の大きさは30cm程度で小さく、阿・吽像共に並んでいます。吽像には角があり、口の部分が破損しており、阿・吽像の判別が出来ない。胸の筋力が強いが、前肢が短く迫力がそがれています。



**不入斗 小鷹神社の狛犬** 小鷹神社には2対の狛犬が置かれています。拝殿正面に置かれているのは昭和53年12月に造立された昭和尾立型の花崗岩製のものです。この狛犬の特徴は阿像の口の中に玉を加えていることです。しかもその玉は口の中で動きますが、決して外に出ない造りで不思議なものです。このような狛犬は、他の地方では見られますが、市原市内ではこの狛犬だけです。非常に高度な細工で、どのようにして、どのような道具を使って彫られたのかを知りたいものです。



小鷹神社の旧来の狛犬は、文政8年9月（1825年）に造立された安山岩製の江戸尾立型のものです。石工は「萬吉」と刻まれています。一見猿のような容姿で、頭が丸く髪の毛は後に長くたらしめています。尾は神主の持つ笏型をしており、直立しほとんど身体にはりついたように彫られています。右の阿像は両前肢が折損しセメントで補修されているのが痛々しい感じです。



**不入斗 熊野神社の狛犬** 神社の石段を登った処に置かれる狛犬は、大正12年10月（1923年）に造立された大正型のもので、特に吽像は下あごが長く犬のブルドックにそっくりです。足元には手毬が置かれ、子獅子と遊ばしそうな様子です。右側の阿像は、懐に子獅子を抱いている。子獅子は大変丁寧に彫られています、尾は後ろで左右に分かれ、前後に大きなカタツムリ状の渦巻きとなっています。大きな石を使ったつぷりと彫られ、堂々としています。ただ裏面は石の幅が足りなかったかやや平面的になっているのが残念です。全体のバランスを見ると、顔が大きく掘り出されています。尾の大きな渦毛は良く彫られています。



片又木 十二社神社の狛犬 参道の階段を上り切った所に置かれる狛犬は昭和14年2月(1939年)に造立された狛犬で、やや押しつぶされた顔を上にに向けた形は、大正型の形態を残すものです。右側の阿像の子獅子が乳を飲んでいて、乳房を引っ張っています。吽像は口を結んでいますが、歯を剥き出しとなっており、歯並びは良いと思います。耳の両側には大きな渦毛があります。尾はロール状に巻かれているが、筒状の中央部に更に小判状になった尾が直立する形となっています。



畑木 畑木神社の狛犬 畑木神社には2対の狛犬が置かれています。神社入口の鳥居前には文政10年3月(1827年)造立の江戸尾立型の狛犬が置かれています。石質は安山岩で、ぎょろりとした大きな顔は平面的で、異国的な容姿をしています。前肢の爪がはっきりと離ればなれに彫られており、前肢の足首近くにも渦紋が掘り出されています。吽像の頭に角の跡があり、それも二山の突起物ではなかったかと思われ。首から背中にかけての線がつながっており、首がほとんどないような状態です。毛の彫りは浅く、ほとんど線彫りの状態です。



畑木神社のもう1対の狛犬 この狛犬は鳥居の先の参道階段を上り詰めた社殿前に置かれています。安山岩製の、大正型のもので造立年は大正5年1月(1916年)と刻まれており、石工は「塚原石七刻」となっています。目の上に眉毛が覆いかぶり、目がはっきりと見えなくノラクロ型の顔つきです。また、両脇の顎鬚も目立ちます。尾は茶筒形で彫りが固い。阿像の後肢は風化が始まっていると思われる。



**深城 熊野神社の狛犬** 熊野神社の狛犬は鳥居の前に置かれており、天保8年9月（1837年）に造立の安山岩製です。形は江戸尾立型のもので石工は不明です。厚ぼったい唇と目の上に覆いかぶさる前髪、全体的の感じはなんとなく異国風ですが、目に力がない。頭部にこぶ状の突起物がある。吽像の方は、頭部のこぶがラクダの背中のように2こぶになっています。尾は雄大なほうき状のものが直立しています。直立した尾の途中には数個の渦毛が彫られているのも珍しい狛犬です。



**姉崎 宝蔵院の狛犬** 寺院に狛犬が置かれているのは少ないのですが、この狛犬は年代不詳ですが江戸後期の造立と推定されるものです。形は江戸尾流れ型で、阿像はひょうきんな形で鼻を上に向け、やさしい目をしています。左前肢が破損しています。吽像には頭部に角が見られる。巻毛はきれいに渦巻き状になっているが彫りは浅い。尾房はほとんど出っ張ってなく、身体に張り付いたような形です。



**豊成 不動院の狛犬** 不動院の狛犬は、昭和12年3月（1937年）造立のものですが、石質は安山岩で石工は不明です。昭和のものとしては、形は良いと思われます。表面にはノミの跡が残っており、彫りは丁寧とは言えず毛の彫りも単調です。前肢の彫りは角ばっていて、弓なりに反っています。尾は後ろでハの字に分かれています。



三和地区 山倉 春日神社の狛犬 春日神社の拝殿前に置かれる狛犬は、嘉永5年9月(1852年)造立の江戸尾流れ型のもので、石材は安山岩です。顔の表情はどことなくおどけた感じで、狛犬として厳しさには欠ける感じがします。全体的には丸みを帯びた形で、耳はお椀を伏せたような丸い形をしていてユーモラスな感じのする狛犬です。吽像の目が繰り出されているのが少し異様な感じがする。尾は後ろに2つに分かれ前後に流れる形です。全体的に渦紋彫りが浅い。前肢が太いが彫り込みが不足気味です。台座の一部が欠けているが、他は良い状態が保たれていて、古色も出て優品の部類と思われる。



大坪 諏訪神社の狛犬 諏訪神社の拝殿前に置かれる狛犬は、造立年が大正12年7月(1923年)で石質は赤色の安山岩で出来ています。まさに大正型の狛犬で、頭部が平らになっており耳が横に張り出しています。顔の両側に渦毛が数個見られます。少し上向きで空を睥んだ姿は、なかなかの形です。毛の彫りは浅い。前肢の彫りは角型で太く、力強さを感じます。尾に特徴があり、五兵衛餅のような厚みのある小判型の尾が直立しており、表面には縦縞の模様がきれいに入っている。



新堀 八幡神社の狛犬 この神社の狛犬は昭和3年7月(1928年)造立のものですが、大正型の形をしています。顔は押しつぶされたような扁平型で、顎髭があるのが特徴です。顔の両脇には大きな巻毛が数個付いているがわざとらしく見え、自然らしくない感じがします。尾は後ろで茶筒状に巻かれ、その先は背中の上まできれいに波状に彫り上げられています。この狛犬特徴は、阿・吽像の肢の爪と目に金箔の一部が残っています。この狛犬の造立時には金箔がきれいに光輝いていたと思います。また、歯の部分には朱が残っていますので、全身に金箔が張られていたわけではないと思われます。



**武士 武市神社の狛犬** 鹿嶋神社には「武市神社」が合祀されている。狛犬は昭和4年10月（1929年）に造立された。狛犬は一見して顎が長く、上唇がめくれているブルドックのような要望をしています。頭部は平坦で、大正型です。狛犬には古色が付き、趣と共に貫録を感じます。前肢、後肢共に太く、特に後肢の甲の部分が異常に大きく、腿の部分の張りも大きい。尾は背中に掘り出されているが特色はない。



**磯ヶ谷 八幡神社の狛犬** この神社、境内社の天満宮を守っている狛犬は明治24年（1891年）に造立されたもので石質は安山岩の江戸尾流れ型の狛犬です。石工は「根本吉五郎」の名が刻まれていて「根本吉輝」と同じ年代で兄弟なのかもしれない。全体的に堂々とした立派な彫りで、柳原の大鷲神社や出津の八雲神社の狛犬と似ています。漫画のノラクロに似た顔で、大きな良質の石材をたっぷり使い、堂々たる体形になっています。頭髪は背中にまいていて、平板的に彫られています。渦毛は頭髪を除いて見られない。尾は後ろでハの字となっていますがあまり大きくはない形です。



神社拝殿前に置かれる狛犬は、岡崎尾立型のものですが、昭和50年度・55年度の出羽三山参拝記念として奉納された狛犬です。左の吽像が母獅子で、前肢で子獅子を抑えています。右側の阿像の前肢では、手毬を抑えており子獅子と遊びをしているようです。



**安須 日枝神社の狛犬** 安須神社には2対の狛犬が置かれており、参道入口の鳥居前に鎮座する狛犬は嘉永2年9月（1849年）の造立された江戸尾流れ型のもので、石質は安山岩で、石工は青柳村の佐吉と記されています。顔は横に広がり、上下の唇が厚く、やや上を向いた顔は風化されて形が崩れ始めています。阿像は子獅子を抱いていますがイルカのように不細工な形です。尾は後ろハの字で、アシカの尾のようです。頭の髪の毛は、背中後ろに長くまいており彫りは浅い。耳は厚肉で横に大きく張り出している。吽像が手毬を抑えている右前肢は短足です。時代の経過で全体的に苔むして古き趣を感じさせる狛犬です。



安須日枝神社の参道階段を上った所に置かれている狛犬は、岡崎尾立のもので、詳細は不明



**高坂 玉前神社の狛犬** この神社の狛犬は嘉永3年11月（1850年）に造立された江戸尾流れ型のもので、石質は安山岩です。頭は丸く、前髪が簾のように眼の上に垂れ、顔の周りは髭だらけが目立ちます。一見猿のような表情をしており、狛犬としての威厳は感じられない。尾は後ろでハの字となっておりアシカの尾のような感じで左右に数個の渦紋を造っています。背中には背骨の関節が数個くっきりと掘り出されています。



**松崎 春日神社の狛犬** 春日神社の狛犬は天保 15 年3月(1844年)に造立された江戸尾流れ型で、石質は安山岩です。拝殿前に鎮座する狛犬は、上下の唇が厚く、やぼったい感じになっています。切り出した石の幅で掘られているようで彫りが浅い。頭髪が二つに分かれて長く垂れ、身体の表面を覆うようになっており、あたかも袈裟を着ているように見えます。身体の線が掘り出されていなく、背中が丸く何となくぼやけた形をしています。吽像の手毬を押さえる右前肢が幅広く、鳥の水かきのようにも見えます。参道の途中に、江戸時代のものと思われる狛犬が横たわっています。まるで犬がチンチンしているような形をしたもので、破損がひどい状態です。



**土宇 玉前神社の狛犬** この狛犬は参道入口の鳥居の前で神社を守っているように置かれています。一見してエキゾチックの容姿で容貌怪奇な感じです。造立は明治9年1月(1876年)で、江戸尾流れ型と思われます。頭部が丸く、まるで帽子をかぶっているようで、口先が尖っていて、普通の狛犬が大きな口で横に広いとは対照的な形です。前肢は太く、爪も大きく掘り出されています。背中には、背骨の凹凸がはっきりと彫られており、肋骨の明確に彫られています。巻毛は少なく、全体的には彫りは浅い。尾は後ろで茶筒状に巻き込んで、端が上方に跳ねて身体の表面に彫り込まれています。



**櫃挟 櫃挟神社の狛犬** この神社の狛犬は大正型のもので、石質は安山岩です。大正9年4月(1920年)に石工の「中西石松」により造立されたものです。狛犬は前肢が太く、力強い風貌です。背中は丸く、胴もたっぷりとした体形をしています。顎鬚が左右に一個ずつ渦巻きとなっており、鼻の下にはチョビ髭があります。頭髪は短く、僅かに背中に垂れて彫られています。尾は後でハの字になっていて、体の大きさに比べて小さい感じがします。



南総地区 中高根 鶴峯八幡神社の狛犬 1対目の拝殿前に置かれる狛犬は昭和15年(1940年)に造立されたもので、石質花崗岩を加工して彫られた高崎尾立ち型のもので、昭和尾立型です。阿像の前肢には手毬が彫られており、吽像の前肢で子獅子が捕まられています。丁寧に彫られており、好感が持てます。



2対目の狛犬は境内末社・上総大国魂社参道入口に置かれる江戸尾立ち型の狛犬です。造立時期は不明ですが、神社関係者によれば江戸時代末期ではないかとの話です。阿像の足元には子獅子があり、吽像の足元には手毬があります。また、もう一対狛犬の石像が置かれていますが、制作途中のものと思われる、異様な形をした彫り物があります。



2対目の狛犬です。足元の子獅子も彫られています



3対目の狛犬は、ここで彫られていたが途中でやめられたと思われる

馬立 大宮神社狛犬 大宮神社の狛犬は大正尾立型のもので、造立年は不明ですが推定大正時代と思われる。石質は安山岩で拝殿前に鎮座しています。顎が長く典型的な大正型の狛犬です。しかし、尾はホウキ型で渦毛がイボのように付いているのは大正型には付いていないが、顔型は大正型のもので、従って造立年代は大正後期か昭和初期と思われます。阿像に踏みつけられている子獅子は、小さいながら丁寧に彫られていて、キバまでが彫り出されています。



寺谷 大宮神社の狛犬 鳥居を通り参道階段の途中に置かれる狛犬は、天保12年9月(1841年)に造立されたもので、石質は安山岩の江戸尾流れ型の狛犬です。石工は「甚太郎」と刻まれています。右の阿像の右前肢は破損しています。また、左の吽像の顔の右半分も破損しており、全体的に破損が著しい状態です。目の上の髪の毛が二つ大きく渦を巻いていて、肩の辺りに垂れた髪の毛も巻毛となっています。全体的に巻毛の状態は平凡です。前肢や後肢共に巨大な爪が異常に目立ちます。前肢の逆毛が大きく巻毛となっているのが珍しい狛犬です。尾はふさふさとした毛が後で二つに分かれ、台座にも彫り込まれています。



佐是 八幡神社の狛犬 八幡神社の拝殿前にお有れる狛犬は、造立年は不明ですが形から江戸後期の嘉永年間のものでしょうか。石質は安山岩で江戸尾流れ型です。年代のわりに風化が進んでいて、刻まれた銘文の判読がしにくい状態です。大正時代の関東大震災の際に揺れて倒れ、一部欠けたようです。この狛犬は身体の向きに対して首を正面に対して90度曲げている形で、従来の形とは異なった形です。全体の彫りを見ると、江戸の石工によって彫られたものと思われます。



牛久 三島神社の狛犬 三島神社には3対の狛犬が置かれています。1対目は社殿前に置かれるものは文化7年9月造立(1810年)の江戸尾立ち型の狛犬です。石質は安山岩で、首が極端に短く、顔が胴に直接くっついているようです。頭にはこぶがあり、阿像は1コブで吽像は2コブです。背中には背骨の辺りに筋肉コブが彫り出されており、前肢部分の筋肉の盛り上がりも丁寧に彫られています。容貌はなんとなく老いた獅子のような感じで鋭さがありません。尾の後の正面には渦紋が多数彫り出されており、実に見事な出来栄です。



三島神社の2対目の狛犬は、拝殿前に置かれるもので昭和49年（1974年）に造立された昭和尾立ち型のもので、石質は花崗岩ですが石工は不明です。昭和型の特徴の大きな顔、盛り上がった装飾化された渦毛、尾の形はソフトクリームのように、唐獅子風の容貌です。



3対目の狛犬は脇村道と途中に置かれるもので、昭和54年11月（1979年）に造立されたもので、石質は花崗岩製の昭和尾立ち型です。一般的な昭和型で、特に個性的な特徴は見られないが、胸のあたりの盛り上がった筋肉や後肢の筋肉の彫り出しが力強さを感じます。



**皆吉 熊野神社の狛犬** 神社の拝殿前に置かれる狛犬は、四肢ですくっと立つ形で大変珍しいものです。造立年は明治34年4月（1901年）で石工は千種村の「木村助次郎」と記されています。石質は安山岩で、江戸尾立ち型のもので、全体的に彫りが丁寧でバランスが良く、造形的にも見るべきものと思います。頭髪は前の方がカールしていますが、後ろは長く垂れています。渦紋は彫りが深く、大きく浮き出しているのが特徴です。ふさふさとした雄大な尾は、上に跳ねあがり背中にまで逆に反り返っています。しかもその間が彫り抜かれています。全体としてふくらみがあり、重量感もあり堂々としたスタイルです。同じような狛犬は、藪の八幡神社にも祀られていますが、石工の銘は記されていません。阿像の口の部分が破損しており、四肢の一部に補修の跡があるので残念です。吽像は完全な状態で、風化の跡も見られません。



**中 八幡神社の狛犬** この狛犬は大正3年3月(1914年)に石工の「山内市郎」により彫られたものです。形は江戸尾立型の狛犬で石質は安山岩です。大きな石から掘り出した感じで、形に余裕が見られます。首を正面からやや左に捻じ曲げて、空に向かって吠えているような形です。太い前肢をしっかりと踏ん張り力強さを感じさせます。目の彫り方が他の狛犬と違った特徴があり、大きく丸く彫り抜かれ、奥目です。呟像はハの字に結んだ口が可愛らしく、尾は直立していますが後ろから見ると渦毛が力強く彫られています。



**原田 諏訪神社の狛犬** 諏訪神社の狛犬は2対あります。参道の石段を上った所に鎮座する狛犬は明和3年9月(1766年)に造立されたもので、市原市内で5番目に古いものです。石質は安山岩の江戸尾立型の狛犬で、石工は権六と記されています。阿像の頭には角があり呟像の頭には凹みがありますが、以前は角があったのが欠けたものと思われる。顔の表情は何ともユニークで、老人の顔と見間違ふほどです。大きな肉厚の耳が垂れているのと、顎髭が目立ちます。大厩の駒形神社や高滝の高瀧神社の狛犬と同時代の唐獅子風のものとは違うユニークな顔をしています。尾は太く大きく直立していますが、後ろ面には小さな巻毛がたくさん付いています。身体の巻毛は彫りが浅い。



**藪 八幡神社の狛犬** 藪の神社の狛犬は、皆吉の狛犬と同じく四つ足で立っている珍しいものです。石質は安山岩の江戸尾立型のもので、明治43年3月(1910年)造立で石工は不明です。狛犬は、やや腰を持ち上げて前屈みになっていて、ダックスフンドのように胴体が太い割には肢が短く、精悍さは見えない。容貌はいかにも狛犬らしい厳しさがあって、良く彫られた狛犬です。胴がボテボテした感じで、容貌とは合わない感じです。尾は背中の方に跳ね上げてそのまま背中表面に彫り込まれています。明治の後期の造立ですが、適当に苔も付き古色があって面白い。



池和田 大宮神社の狛犬 この神社の狛犬は、造立年代は不詳ですが形から推測するに弘化年代(1844年～1848年)と思われます。石質は安山岩で江戸尾立型、石工は根本甚五郎と記されています。狛犬は目の上に巻毛が二つ渦を巻いていて、尾は後ろで巻き上がり、こんもりと盛り上がり渦毛も見事です。阿像の子獅子を抑え込んでいる左前肢が太く、彫りは不細工ですが全体的には良く彫られている。子獅子は丁寧に彫られています。



### 鶴舞 鶴舞神社の狛犬と狛狐

鶴舞神社には狛犬と狛狐が置かれています。以前に鳥居前に置かれるのは慶応3年11月(1867年)に造立された狛犬で、石質は安山岩の江戸尾立型のものです。身体は痩せて貧弱な感じのものですが、細かな所まで丁寧に彫られています。顔は犬のチンのような容貌をしており、全体として従来の狛犬の概念にとらわれずに自由な表現を試みた点で興味深い狛犬です。背中には、背骨の節が彫り込まれていますが、丁寧に写実的な努力の跡が見られます。



左は現在の狛犬像側面・中央は阿像正面・右側は慶応3年の狛犬阿像ですが、現在は隠居しています

慶応3年に造立された狛狐も現在は隠居しています。現在拝殿前に置かれているのは近年に造立された狛狐です。



左と中央の狛狐は現在拝殿前に鎮座しているものです。右側は拝殿の脇で鎮座している隠居した狛狐です

**平蔵 熊野神社の狛犬** 鳥居前に置かれるこの狛犬は大正年代に造立されたもので、大正型の特徴の頭髪が平らで、お盆を被っているようでもあり、三度笠を被っているような狛犬です。石質は安山岩で、石工は「星野美政」と記され、口を突き出し、目は団子のように丸い玉が二つ付いたような形が面白い。おぼんの下から出たような頭髪が肩まで垂れて先端が軽くカールしています。巻毛の中心がおへそのように盛り上がっています。尾の彫りは浅く、後ろで左右に分かれています。全体的に角ばった感じの彫りです。



**鶴舞 西連寺の狛犬** 寺院に祀られる狛犬は数少ないのですが、この寺院の狛犬は明治41年1月(1908年)に造立されたもので、石質は安山岩で江戸尾立型です。石工は「安藤常太郎」と記されています。子の狛犬は、なかなか厳しい表情をしており、上唇が厚くあごひげが垂れ下がっています。身体は、やや胴長の狛犬で腰が低く据えて落ち着きがあります。尾の形状が中央部の背中中央にまで這い上がって面白い狛犬です。



**加茂地区 高瀧神社の狛犬** (15Pにも加茂地区の紹介にも掲載されています)

高瀧神社には2対の狛犬が置かれています。拝殿前に鎮座する狛犬は寛延元年(1748年)造立のもので、郡本八幡神社と同じく市原市内で2番目に古い狛犬です。形は江戸尾立型で石質は安山岩、石工は「江戸弥八」と記されています。この狛犬は、空に向かって大きく口を開けた堂々とした体形です。胸の辺りにたっぷり肉が付いており風格があります。胴の部分もゆったりとした感じです。前肢を大きく踏ん張り、上を向いた姿が健気です。ただ前肢がやや短いのが気になります。後肢は太く短く、また逆毛も見られます。尾は板状になったものが直立しています。鼻が上を向いており、容貌は厳しさが足りなく、巻毛の彫りも浅い。石質は良いもので、ほとんど風化の跡は見られません。



高瀧神社の2対目の狛犬は、裏参道の石段を上った所に置かれています。昭和12年6月(1937年)に造立された狛犬は、石質は安山岩で石工は安藤硯年と記されています。身体は全体として頭でっかちで、体形のふくらみを感じられなく、狛犬としての重量感に乏しい。表情にも迫りに欠けるところもありますが、これは顎の部分の肉が厚く首回りがすっきりしていないことに原因があるものと思われる。尾は後ろで二つに分かれ、左右に流れ紋となっている。飯香岡八幡宮の狛犬の作者「安藤硯年」と同じですが、「比較をすると造形的には若干劣るものと思われる。



### 山口 子安神社と大六天神社の狛犬

子安神社は八坂神社に合祀されており社殿右側に祀られており、それを守るために小さな狛犬が鎮座しています。右側の阿像狛犬は頭部が欠けてなく、吽像はかろうじて形は保っていますが、鼻や口の部分がとれて顔の部分は見れない。髪は後ろに長く垂れて、前の部分は若干カールしています。尾は平板のように立っている。吽像の頭には突起物がある。造立年代は大正後期か昭和初期のものと思われる。



大六天神社の狛犬 八坂神社の先の細い参道を上った所にこの神社があり、拝殿前に狛犬が置かれています。造立年代は不明ですが、形から推測し昭和初期の大正型と思われます。阿吽像ともさほど大きくはありません。顔は、ニンマリと笑っているようで威厳は感じられない。吽像はやや下向き加減で、前肢の開きのバランスが悪いような気がします。



石塚 白鳥神社の狛犬 市原市内で一番高い所にある白鳥神社には2対の狛犬が置かれています。拝殿前に置かれている狛犬は、江戸尾立型で文政13年4月(1830年)に造立されたもので、石質は安山岩で掘られています。石工は「萱野丈吉良教」と記されています。この狛犬は、獅子というよりは可愛い犬といった感じです。時代経過でかなりの苔むした状態でやや風化してきています。顔は扁平であまり出ていなく、目はやや奥目で大きな目玉です。歯を剥き出しています。尾は帯状のものが直立し、尾の後ろに巻毛が見られます。体毛は大きなものではなく、のっぺりとした滑らかな肌となっています。阿吽像の頭には角状の突起が見られます。特に吽像の方がはっきりとした角になっています。



白鳥神社2対目の狛犬は、平成3年11月に石段改修記念に氏子総代より奉納されたものです。岡崎尾立型の狛犬です。昭和初期の画一的な狛犬です。



### 朝生原 八坂神社(白山神社)の狛犬

八坂神社の狛犬は昭和39年2月(1964年)に造立されたものです。石質は安山岩で、石工は不詳です。昭和中期以降画一的な狛犬が氾濫する中であって、この狛犬はきわめて特異な存在です。第一に彫りが繊細、精微な細工で彫り出されています。渦毛の部分が透かし彫りになっており、尾の部分にも立体的にほり抜かれており、実に繊細なものです。第二には目玉が入っているもので、仏像では珍しくないものですが、石造狛犬の狛犬はほとんど見られません。第三は、頭に角があることで昭和の狛犬では珍しいものです。また阿像には男性の性器が彫り出されており、古い時代のもものでは例がありますが、江戸時代以降のものでは珍しい狛犬です。



全国のおもしろ・珍しい狛犬紹介



鹿島神社の逆立ち狛犬



荒川神社の逆立ち狛犬



熊野大社の威嚇する狛犬



目にガラス玉が入った狛犬  
朝生原八坂神社（白山神社）



諏訪神社の願いが叶う狛犬



砲弾を守る狛犬（長須賀）



笑う狛犬



金刀比羅宮 睦魂神社の狛犬

柵から様子を見る可愛い子獅子



原宿の神社の現代風狛犬



キモ可愛いはじめちゃん狛犬



皆吉熊野神社の四つ足の狛犬

市内の神社・寺院の狛犬一覧表

NO	建立年月	西 暦	神社・寺院名	所在地区	種類	石工名	備 考
1	貞享 3年 5月	1686年	飯香岡八幡宮	八幡1057-1	狛犬	不明	木彫り
2	元文 5年 1月	1740年	駒形神社	大厩947番地	狛犬	不明	
3	延享 5年 8月	1748年	八幡神社	郡本1丁目430	狛犬	泉水屋久兵衛	市内最大の狛犬
4	寛延元年 8月	1748年	高瀧神社	高滝1番地	狛犬	江戸石工弥八	
5	明和 3年 9月	1766年	諏訪神社	原田310番地	狛犬	松尾町 権六	
6	安永 2年 6月	1773年	熊野神社	金剛地208番	狛犬	不明	
7	文化 6年 6月	1809年	姉崎神社	姉崎2278番地	狛犬	久兵衛・辰右衛門	
8	文化 7年 9月	1810年	三島神社	牛久522番地	狛犬	不明	
9	文政 2年 6月	1819年	八坂神社	椎津230番地1	狛犬	木嶋久兵衛	
10	文政 4年 2月	1821年	稲荷神社	岩崎1-36-5	狛犬	不明	
11	文政 8年 3月	1825年	島穴神社	島野1129番地	狛犬	不明	
12	文政 9年 9月	1825年	小鷹神社	不入斗189番	狛犬	萬吉	
13	文政10年 3月	1826年	畑木神社	畑木456番地	狛犬	不明	鳥居前
14	文政13年 4月	1830年	白鳥神社	石塚546番地	狛犬	萱野丈吉良教	
15	天保 2年 月	1831年	日枝神社	勝間387番地	狛犬	不明	
16	天保 4年10月	1833年	金毘羅神社	五井	狛犬	不明	
17	天保 8年 2月	1837年	根田神社	根田3-8-50	狛犬	不明	子獅子・手毬
18	天保 8年 9月	1837年	熊野神社	深城554番地	狛犬	不明	鳥居前
19	天保 9年 6月	1838年	稲荷神社	神崎732番地1	狛狐	不明	
20	天保12年 9月	1841年	大宮神社	寺谷754番地	狛犬	川岸甚太郎	
21	天保15年 2月	1844年	宇佐八幡神社	廿五里1386	狛犬	不明	子獅子
22	天保15年 3月	1844年	春日神社	松崎859番地	狛犬	不明	手毬
23	天保15年 8月	1844年	八幡神社	瀬又89番地	狛犬	不明	
24	天保15年 9月	1844年	稲荷神社	玉前136番地	狛犬	不明	
25	弘化 4年 8月	1847年	戸隠神社	惣社4-9-18	狛犬	不明	
26	弘化 4年 8月	1847年	妙見神社	葉木658番地1	狛犬	不明	子獅子・
27	弘化 5年 1月	1848年	若宮八幡神社	青柳539番地	狛犬	深川 源兵衛	
28	弘化 5年 4月	1848年	養老神社	松ヶ島1番地	狛犬	不明	子獅子・手毬
29	嘉永 2年 9月	1849年	日枝神社	安須356番地	狛犬	青柳村佐吉	子獅子・手毬
30	嘉永 3年11月	1850年	玉前神社	高坂387番地	狛犬	不明	
31	嘉永 5年 9月	1852年	春日神社	山倉765番地	狛犬	不明	
32	嘉永 7年 8月	1854年	荻作神社	荻作265番地	狛犬	安藤佐平治	
33	嘉永 7年11月	1854年	犬成神社	犬成713番地	狛犬	安藤佐平治	子獅子
34	安政 3年 4月	1856年	浅間神社	今津朝山540-1	狛犬	不明	
35	安政 3年 9月	1856年	若宮八幡神社	廿五里86番地	狛犬	不明	子獅子
36	元治 元年 6月	1864年	不動尊	大和田478番	狛犬	不明	寺院
37	慶応 2年 9月	1866年	海保神社	海保879番地	狛犬	青柳村 佐吉	階段下
38	慶応 2年 9月	1866年	海保神社	海保879番地	狛犬	青柳村 佐吉	拝殿前

NO	建立年月	西 曆	神社・寺院名	所在地区	種類	石工名	備 考
39	慶応3年11月	1867年	鶴舞神社	鶴舞624番地	狛犬	不明	風化破損大
40	慶応3年11月	1867年	鶴舞神社	鶴舞624番地	狛狐	不明	子狐
41	明治3年8月	1870年	根元神社	馬立61番地	狛犬	不明	
42	明治9年1月	1876年	玉前神社	土宇1479番地	狛犬	不明	
43	明治11年	1878年	浅間神社	海保879番地	狛犬	不明	左像首無し
44	明治12年9月	1879年	熊野神社	西野238番地	狛犬	不明	子獅子
45	明治12年10月	1879年	妙永寺	山木943番地	狛犬	安藤常三郎	手毬
46	明治13年10月	1880年	熊野神社	小田部351番地	狛犬	不明	子獅子
47	明治17年4月	1884年	飯奈利神社	今津朝山540-1	狛狐	不明	狐は昭和34年
48	明治20年11月	1887年	釈蔵院	能満582番地1	狛犬	不明	天保2年に建立
49	明治24年8月	1891年	八幡神社	磯ヶ谷1498	狛犬	根本吉五郎	
50	明治25年11月	1892年	八坂神社	西国吉209番地	狛犬	不明	手毬
51	明治33年11月	1900年	海保神社	海保879番地	狛犬	不明	石段上
52	明治33年11月	1900年	海保神社	海保879番地	狛犬	不明	拝殿前
53	明治34年4月	1901年	熊野神社	皆吉1282番地	狛犬	木村助次郎	
54	明治41年1月	1908年	西連寺	鶴舞199番地	狛犬	安藤常太郎	
55	明治41年10月	1908年	若宮八幡神社	五井5024番地	狛犬	石工 佐平	子獅子・手毬
56	明治42年10月	1909年	大鷲神社	柳原18番地	狛犬	根本吉輝	
57	明治42年	1909年	諏訪神社	諏訪2-2-8	狛犬	青柳伊藤米年	
58	明治43年3月	1910年	八幡神社	藪644番地	狛犬	不明	
59	明治44年	1911年	天神社	古市場116番地	狛牛	不明	
60	大正2年7月	1913年	大宮神社	五井中央1-20-7	狛犬	中西畿三郎	子獅子・手毬
61	大正3年5月	1914年	八幡神社	中60番地	狛犬	山内市郎	
62	大正3年10月	1914年	稲荷神社	君塚1-28-23	狛狐	中西畿三郎	宝珠あり
63	大正4年8月	1915年	稲荷神社	玉前136番地	狛狐	不明	宝珠・子狐
64	大正4年9月	1915年	稲荷神社	玉前136番地	狛狐	不明	宝珠
65	大正5年1月	1916年	畑木神社	畑木456番地	狛犬	塚原の石七	
66	大正5年8月	1916年	八幡神社	今富742番地	狛犬	橋本七之助	
67	大正5年10月	1916年	喜多神社	喜多151番地	狛犬	高橋七之助	手毬・子獅子
68	大正5年12月	1916年	八幡神社	平蔵606番地	狛犬	不明	手毬あり
69	大正6年8月	1917年	浅間神社	青柳3-5-11	狛犬	不明	子獅子・手毬
70	大正7年3月	1918年	稲荷神社	五井6449番地	狛狐	根本吉五郎	宝珠
71	大正7年9月	1918年	飯香岡八幡宮	八幡1057番地	狛犬	根本吉輝・堀口弥吉・安藤硯年	
72	大正8年3月	1919年	熊野神社	奉免1377番地	狛犬	不明	手毬
73	大正8年4月	1919年	柏原神社	柏原129番地	狛犬	不明	
74	大正9年4月	1920年	櫃挾神社	櫃挾143番地	狛犬	中西石松	
75	大正9年10月	1920年	大宮神社	平田842番地	狛犬	不明	
76	大正10年3月	1921年	大杉神社	平蔵3324番地	狛犬	山内卓年	
77	大正10年7月	1921年	諏訪神社	諏訪2-2-8	狛犬	不明	

NO	建立年月	西暦	神社・寺院名	所在地区	種類	石工名	備考
78	大正11年	1922年	稲荷神社	五井6449番地	狛狐	不明	宝珠
79	大正11年 10月	1922年	山祇神社	新生525番地	狛犬	中西石松	
80	大正11年 10月	1922年	白幡神社	潤井戸684番地	狛犬	浜野駅前石松	
81	大正11年 12月	1922年	八雲神社	出津101番地	狛犬	根本吉輝	
82	大正11年 7年	1922年	大宮神社	五井中央1-20-7	狛犬	不明	
83	大正12年 7月	1923年	諏訪神社	大坪636番地	狛犬	不明	子獅子・手毬
84	大正12年 10月	1923年	熊野神社	不入斗1402番地	狛犬	不明	子獅子・手毬
85	大正13年 6月	1924年	八幡神社	五井5024番地	狛犬	松田助次郎	
86	大正14年 10月	1925年	八幡神社	今富742番地	狛犬	中西三郎	
87	大正15年 9月	1926年	山神社	米原2152番地	狛犬	石塚鶴雲	
88	昭和 2年 6月	1927年	天照大神	天羽田1265番地	狛犬	中西吉輝	
89	昭和 2年 7月	1927年	岩野見神社	岩野見439番地	狛犬	不明	子獅子
90	昭和 3年 7月	1928年	八幡神社	新堀1366番地	狛犬	不明	
91	昭和 4年 10月	1929年	日枝神社	大桶275番地	狛犬	不明	
92	昭和 4年 10月	1929年	鹿島神社	武士205番地	狛犬	不明	
93	昭和 4年 10月	1929年	姉崎神社	姉崎2278番地	狛犬	不明	
94	昭和 5年 6月	1930年	八雲神社	青柳2059番地	狛犬	伊藤亀年	
95	昭和 5年 9月	1930年	稲荷神社	五井6449番地	狛犬	根本吉三郎	岩の下に子獅子
96	昭和 5年 10月	1930年	諏訪神社	引田114番地	狛犬	不明	
97	昭和 7年 5月	1932年	稲荷神社	八幡1328番地	狛狐	浜野 佳舟	子狐・宝珠
98	昭和12年 3月	1937年	不動院	豊成15番地	狛犬	不明	
99	昭和12年 6月	1937年	高瀧神社	高滝1番地	狛犬	安藤硯年	手毬
100	昭和13年 12月	1938年	八坂神社	権現堂16番地	狛犬	高橋七之助	子獅子・手毬
101	昭和14年 2月	1939年	十二社神社	片又木317番地	狛犬	不明	子獅子
102	昭和15年 7月	1940年	八坂神社	椎津230番地1	狛犬	不明	手毬・子獅子
103	昭和15年	1940年	八幡神社	中高根1096番地	狛犬	不明	
104	昭和16年 6月	1941年	熊野神社	久保1148番地	狛犬	山内卓年	手毬
105	昭和17年 1月	1942年	阿波須神社	五井3389番地	狛犬	不明	
106	昭和17年 6月	1942年	荻作神社	荻作265番地	狛犬	不明	
107	昭和18年 1月	1943年	平野神社	永吉115番地	狛犬	不明	手毬・子獅子
108	昭和26年 10月	1961年	妙見神社	葉木658番地1	狛犬	浜野 佳舟	子獅子・手毬
109	昭和34年 10月	1959年	白幡神社	山木243番地	狛犬	安藤硯年	子獅子・手毬
110	昭和39年 2月	1964年	八坂神社	朝生原998番地	狛犬	不明	
111	昭和39年10月	1964年	宿大神社	五井中央西1-13	狛狐	不明	子狐
112	昭和40年 1月	1965年	雷 神社	分目 266番地	狛犬	不明	
113	昭和42年 7月	1967年	白幡神社	姉崎1234番地	狛犬	不明	
114	昭和49年 5月	1974年	三島神社	牛久522番地	狛犬	不明	
115	昭和49年 7月	1974年	八坂神社	牛久522番地	狛犬	不明	
116	昭和52年 3月	1977年	白山神社	福増851番地	狛犬	不明	

NO	建立年月	西暦	神社・寺院名	所在地区	種類	石工名	備考
117	昭和52年 3月	1977年	八坂神社	海保879番地	狛犬	不明	
118	昭和52年 8月	1977年	稲荷神社	椎津2412番地	狛狐	不明	巻物
119	昭和52年12月	1977年	稲荷神社	山田橋3-11-19	狛狐	不明	珠・巻物
120	昭和53年 1月	1978年	辰巳台神社	辰巳台東1-8	狛犬	不明	
121	昭和53年12月	1978年	春日神社	上原204番地	狛犬	不明	
122	昭和53年12月	1978年	小鷹神社	不入斗189番地	狛犬	不明	口にくわえる玉
123	昭和54年 1月	1979年	押沼神社	押沼236番地	狛犬	不明	
124	昭和54年11月	1979年	三島神社	牛久522番地	狛犬	不明	
125	昭和55年 3月	1980年	大宮神社	海士有木1713	狛犬	不明	
126	昭和56年 3月	1981年	貴船神社	上高根705番地	狛犬	不明	
127	昭和57年11月	1982年	加茂神社	加茂2-5-2	狛犬	不明	手毬・子獅子
128	昭和58年 1月	1983年	浅間神社	下野248番地	狛犬	不明	手毬・子獅子
129	昭和60年10月	1985年	諏訪神社	諏訪2-2-8	狛犬	不明	
130	昭和61年 8月	1986年	稲荷神社	八幡1328番地	狛狐	不明	宝珠・手毬
131	昭和62年 3月	1987年	府中日吉神社	能満589番地2	狛猿	不明	鎗田石材店
132	昭和62年12月	1987年	大宮神社	川在1032番地	狛犬	不明	手毬・子獅子
133	平成 1年 4月	1989年	淡州神社	米沢713番地	狛犬	不明	
134	平成 1年 4月	1989年	八幡神社	菊間3166番地	狛犬	不明	手毬・子獅子
135	平成 1年 8月	1989年	大宮神社	迎田116番地	狛犬	不明	
136	平成 2年 3月	1990年	天津日神社	万田野178番地	狛犬	不明	手毬・子獅子
137	平成 2年 7月	1990年	面足神社	新井148番地	狛犬	三和石材	手毬・子獅子
138	平成 3年11月	1991年	白鳥神社	石塚546番地	狛犬	不明	手毬・子獅子
139	年代不詳		八幡神社	佐是299番地	狛犬	不明	推定嘉永年代
140	年代不詳		大宮神社	池和田932番地	狛犬	根本甚太郎	推定弘化年代
141	年代不詳		稲荷神社	五井6447番地	狛犬	根本甚太郎	推定弘化年代
142	年代不詳		大宮神社	馬立1609番地	狛犬	不明	推定大正年代
143	年代不詳		金毘羅宮	椎津230番地1	狛犬	不明	推定昭和年代
144	年代不詳		保食神社	椎津230番地1	狛狐	不明	推定慶応年代
145	年代不詳		熊野神社	平蔵1814番地	狛犬	星野美政	推定大正年代
146	年代不詳		諏訪神社	久々津552番地	狛犬	不明	推定江戸時代
147	年代不詳		子安神社	山口237番地	狛犬	不明	推定大正年代
148	年代不詳		日枝神社	海士有木147	狛犬	不明	推定昭和後期
149	年代不詳		神代神社	神代265番地	狛犬	不明	昭和年代
150	年代不詳		宝蔵寺	姉崎2462番地	狛犬	不明	推定江戸時代
151	年代不詳		八幡神社	菊間3166番地	木狛犬	不明	推定江戸時代
152	年代不詳		稲荷神社	岩崎1-36-5	狛狐	不明	推定昭和初期
153	年代不詳		山王権現	五井中央1-20-7	狛犬	不明	
154	年代不詳		熊野神社	町田542番地	狛犬	不明	推定江戸時代
155	年代不詳		浅間神社	君塚2-28-23	狛犬	不明	

NO	建立年月	西暦	神社・寺院名	所在地区	種類	石工名	備考
156	年代不詳		雷 神社	分目266番地	狛犬	不明	
157	年代不詳		大六天神社	山口237番地	狛犬	不明	推定大正時代
158	年代不詳		日枝神社	海保879番地	狛犬	不明	推定慶応4年
159	年代不詳		上総大国神社	中高根1223番地	狛犬	不明	推定昭和初期
160	年代不詳		上総大国神社	中高根1223番地	狛犬	不明	推定年

### 市原市内の狛犬調査の報告

調査した神社及び寺院の数は150件ですが、市内には300社を超える神社があります。また狛犬の祀られている寺院も6か所ありました。今回の調査では、江戸時代から昭和初期までの狛犬を調べました。

近年のものは、概ね岡崎型のもので調査対象から省いてあります。

### 調査結果のまとめ

調査した狛犬の明細は個々に説明してありますが、種類別に見ますと別表の通りです。

狛犬・狐・他の数(市原の狛犬) (※平成3年発行の市原市教育委員会監修からの引用です)

獅子(石像) 140 獅子(木像) 2 狐 15 猿 3 牛 1

### 地区別

市津地区 16対 市原地区 15対 五井地区 49対

姉崎地区 21対 三和地区 20対 南総地区 28対 加茂地区 11対

### 造立年代の分布

江戸時代(1686年~1868年) 40対

明治時代(45年間) 19対

大正時代(15年間) 28対

昭和時代(64年間) 45対

平成時代(32年間) 6対

年代不詳 22対

### 尾の形からの分類

狛犬の尾の形はいろいろな形のものがあり、年代的特徴は特に見られない。尾を立てたものが多い用ですが、後から見た形や模様が個性的に描かれています。また、横に流れるように左右に分けられ渦巻き状に彫られたり、女性が髪をカールするように巻き込んだ形をしたものなど面白いものも見られます。しかし、古い時代の尾はあまり強調されていませんが、昭和時代のものからは尾が太い形ですと立てて一般的に目立つものも多く見られます。

制作・編集 上総の国いちはらの歴史を知る会

連絡先 090-3545-1113

ふるさと市原をつなぐ連絡会会員(通称ふるれん)

この資料は「ふるれんネットのいちまる館」よりダウンロードでき